

和歌山信愛女子短期大学 2023 年度 FD 活動報告書

ティーチングポートフォリオ

2024 年6月

FD・教学 IR 委員会

目次

| | |
|-------------------------------|-----|
| 目次 | 1 |
| I. 目的 | 3 |
| II. 対象教員 | 3 |
| III. 専任教員のティーチングポートフォリオ | 4 |
| 1) 生活文化学科 | 4 |
| 勝本泰弘 | 5 |
| 中西淳平 | 12 |
| 伊藤 宏 | 18 |
| 雨夜 真規子 | 23 |
| 成田 仁美 | 28 |
| 山本 桂子 | 34 |
| 真砂 みづほ | 39 |
| 森岡 美帆 | 42 |
| 岡井 明美 | 58 |
| 芝田 史仁 | 63 |
| 西出 允徳 | 70 |
| 野志 昌弘 | 76 |
| 堀江 大輔 | 82 |
| 若林 一花 | 86 |
| 藪下 春菜 | 90 |
| 2) 保育科 | 93 |
| 井澤 正憲 | 94 |
| 今西 香寿 | 97 |
| 岡崎 満希子 | 103 |
| 小笠原 眞弓 | 107 |

| | |
|--------------|-----|
| 小滝 正孝..... | 113 |
| 木村 正徳..... | 118 |
| 桑原 徹也..... | 122 |
| 渡辺 直人..... | 127 |
| 金谷 有希子 | 130 |
| 桜井 裕子..... | 135 |
| 仲谷 徹子..... | 138 |

I. 目的

本学のティーチングポートフォリオは、教員のティーチングに関する優れた知識を共有し、広く発信することにより、本学における教育方法の改善に資すること目的として、実施するものである。

II. 対象教員

助手を含む、全ての専任教員

Ⅲ. 専任教員のティーチングポートフォリオ

1) 生活文化学科

勝本泰弘

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 生活文化学科 |
| 氏名 | 勝本泰弘 |
| 役職 | 学科長 ・ 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|--------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 情報処理演習(生 1) | 生文 | 1 | 前 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 情報処理演習(食 1) | 食物 | 1 | 前 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 情報処理演習(保 1A) | 保育 | 1 | 前 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 情報処理演習(保 1B) | 保育 | 1 | 前 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 情報処理演習(保 2A) | 保育 | 2 | 後 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 情報処理演習(保 2B) | 保育 | 2 | 後 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 情報文化論 | 生文 | 2 | 後 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |
| くらしに生きる数学 | 共通 | 1 | 後 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |
| 生活文化論 | 生文 | 2 | 前 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 生活文化ゼミ | 生文 | 2 | 後 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|--------------|--------|
| 運営委員会 | 委員長・委員 |
| 教務部会 | 委員長・委員 |
| FD・教学 IR 委員会 | 委員長・委員 |

| | |
|--------------------|--------|
| 自己点検・評価委員会 | 委員長・委員 |
| SD 委員会 | 委員長・委員 |
| 障がい学生支援委員会 | 委員長・委員 |
| 研究倫理・コンプライアンス推進委員会 | 委員長・委員 |
| ハラスメント防止対策委員会 | 委員長・委員 |
| 衛生委員会 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|-------------|-----------|
| 島財団 島ものづくり塾 | 理事会、運営会活動 |
| 和歌山市人権委員会 | 地区委員会活動 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | 【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造 |

| | |
|----|--|
| | <p>的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>学生に生活の中の情報・数学的処理に係る幅広い知識と技能を修得させ、地域と社会に貢献できる人材育成を目的とする。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|------------|--|--|
| 情報処理演習(生1) | <p>コンピュータの基本操作と Web 検索、ワープロソフトを活用したビジネス文書の作成、表計算ソフトを使用したデータ処理、プレゼンテーションソフトを利用した資料作成の基礎技能の習得を目標に授業展開した。また、ワープロと表計算ソフトを活用し、ビジネス現場で有用なレポートの作成方法を教授した。</p> | <p>毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。特に、Excel の指導については、より内容を精査し、関数の活用充実に努めた結果、理解のしやすさという面から学生からの評価も高かった、</p> |
| 情報処理演習(食1) | <p>コンピュータの基本操作と Web 検索、ワープロソフトを活用したビジネス文書の作成の基礎技能の習得を目標に授業展開した。また、表計算ソフトを使用したデータ処理を通して、資料作成の基礎技能を学ぶとともに、栄養士業</p> | <p>毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参</p> |

| | | |
|-------------|---|--|
| | 務に必要不可欠な統計学の基礎知識についても教授した。 | 考とした。栄養士を目指す学生にとって有用な統計処理の基本内容も享受し、学生のデータ活用の基礎知識の理解を進めることができた。 |
| 情報処理演習(保 1) | コンピュータの基本操作と Web 検索、ワープロソフトを活用したビジネス文書の作成、表計算ソフトを使用したデータ処理の基礎技能の習得を目標に授業展開した。また、保育現場で活用できるよう、プレゼンテーションソフトを利用した資料作成の基礎技能を教授した。 | 毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。プレゼンテーションソフトを利用した資料作成をとおして、学生に、教育現場での活用意識を高めることができた。 |
| 情報処理演習(保 2) | コンピュータの基本操作と Web 検索、ワープロソフトを活用したビジネス文書の作成、表計算ソフトを使用したデータ処理の基礎技能の習得を目標に授業展開した。また、保育現場で活用できるよう、プレゼンテーションソフトを利用した資料作成の基礎技能を教授した。 | 毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。プレゼンテーションソフトを利用した資料作成をとおして、学生に、教育現場での活用意識を高めることができた。Excel に初めて触れた学生からは、やや授業進度が早いという評価もあり、今後の対策を考えたい。 |
| 情報文化論(生 2) | 18 世紀末から現在に至る進展著しい情報技術の歴史を学ぶことを通して、現在の社会状況に至った道筋を確認させた。さらに、 | 情報技術の発展の歴史をその文化的背景を示しながら内容の精選を進め教授した。また、現在の状況や今後の発展予測や留意 |

| | | |
|---------------|---|---|
| | <p>ビッグデータの活用が加速的に拡大しつつある現在、AI のさらなる発達が予測される社会の功罪を予想し、今なすべきことを教育の観点を踏まえ考察を深めた。</p> | <p>点について、学生がより興味を持てるような具体的題材を示しながら授業を進めた結果、学生の評価は高かった。</p> <p>毎回の授業のポイントや感想を文書で提出させながら理解度をチェックし授業を進めてきた。特に、現代での課題を考察する授業において、各学生の意見を活用する場面が少なかったため、今後は、その部分を改善し、学生がより興味関心を持てる内容の充実を図っていきたい。</p> |
| くらしに生きる数学(全1) | <p>数学が日常生活の中で活用されている事例について紹介し、その仕組みや工夫を認識させた。さらに、その知識や技法を使って演習を行い、その有用性と楽しさを味わわせた。また、その過程を通して、数的処理・推理力を育成し、論理的思考力を高める授業を展開した。</p> | <p>毎回、基礎問題や実践問題とレベルの異なる問題を提示し、演習を行いながら授業を展開し、「就活に役立つ内容もありよかった」という学生の評価もあった。くらしの中にある仕組みと数学とのかかわりについての授業の展開に努めたが、今後、その部分のさらなる充実に努めたい。</p> |
| 生活文化論(生2) | <p>生活文化に関する知識や和歌山地域の特性をさまざまな観点から学ばせ、家庭と地域、社会貢献に必要となる基礎力を養い、自己の研究課題をオムニバス形式で探求させた。特に、生活と係る数学的な事象について授業展開した。</p> | <p>オムニバス形式の授業で、私が担当したのは100分×2コマでした。1コマ目では、一昨年、ゼミで研究し、まとめた自然界に潜むフィボナッチ数列や昨年、ゼミで、演習をまとめた日常で有用な統計処理について、2コマ目はコンピュータアルゴリズムや電子基板の設計にも活用されており、私の専門分野であるグラフ理論について、学生に興味関心を持ってもらいたい内容を選び、授業に取り</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | | 組んだ。 後期のゼミ紹介を兼ねており、日常生活に活用されている数学や数学的な思考の有用性、学ぶ楽しさを伝えられるような内容の充実を、さらに図っていきたい。 |
|--|--|--|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

情報処理演習、暮らしに生きる数学、情報文化論にて、個々の学生の習熟度に合わせ、個別補習を実施し、その理解度に成果を得た。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

- ◇ 新授業「暮らしに生きる統計学」の実施において、統計的な手法を使つての考え方やその処理の有用性を学生に感じ取らせ、Excel を使つての基本統計処理について演習形式で授業展開し、その基本処理の仕方を教授したい。
- ◇ 新授業「数的処理演習(数的推理)」の実施において、公務員試験や就職試験対策として、演習形式で授業を実施し、数的処理を行う上での数学的事項を整理、復習しながら、実践問題を速く的確に解けるよう教授したい。
- ◇ 授業「情報処理演習」では、特に学生の高校までに学習してきた科目の違いによる情報処理能力差が大きいので、習熟度に応じて各自で取り組める教材の充実を図りたい。
- ◇ 授業「情報文化論」では、情報分野の発展の歴史をたどった学習の後、現在の問題点等について、学生同士が議論できるような授業展開をしたい。
- ◇ 授業「暮らしに生きる数学」では、日常生活に活用されている数学や数学的な思考の有用性、学ぶ楽しさを伝えられるような部分の充実を、さらに図っていきたい。
- ◇ 授業「生活文化論」では、後期の「生活文化ゼミ」につながるような題材の紹介に努めていきたい。
- ◇ 授業「生活文化ゼミ」では、グラフ理論を活用した生活に係る題材の調査研究に取り組みたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

- ◇ 学生のマイクロソフト・オフィス・スペシャリストの資格や IT パスポートの資格取得に向けての対策講座等の実施に努めていきたい。
- ◇ 高校時代に確率統計について深く学んでいない学生にとっても、興味関心が持て、Excel を

活用して基本統計処理ができるオリジナルテキストの作成をしたい。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

中西淳平

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 31 日 |
| 所属 | 生活文化学科生活文化専攻 |
| 氏名 | 中西淳平 |
| 役職 | 准教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|---------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 基礎演習 | 生文 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 情報処理論 | 生文 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 情報科学 | 生文 | 1 年 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| コンピュータネットワーク論 | 生文 | 2 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| コンピュータ科学演習 | 生文 | 2 年 | 前期 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| マルチメディア演習 | 生文 | 2 年 | 前期 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| プログラミング | 生文 | 2 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 生活文化論 | 生文 | 2 年 | 前期 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| Web プログラミング | 生文 | 2 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 生活文化ゼミ | 生文 | 2 年 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 担 | 生 | 2 | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|------------|----|
| 教務部 | 委員 |
| 図書館委員会 | 委員 |
| 進路・就職委員会 | 委員 |
| 自己点検・評価委員会 | 委員 |

| | |
|---------------|----|
| SD 委員会 | 委員 |
| ハラスメント防止対策委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| 特になし | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| 特になし | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>【保育科】</p> <p>建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>社会人として必須となる技能であるコンピュータソフトウェアの基本的な操作をマスターするだけでなく、コンピュータの基本動作および原理を学ぶことで、幅広い知識と技能を身に付けた人材を育成する。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------|---|---|
| 基礎演習 | <p>ICT 機器を実際に使用して、基本的な使用方法を学習させた。また、ICT 機器を活用して文章表現の学修を進めた。必要に応じてグループワークを取り入れた。</p> | <p>授業評価アンケートでは、各項目について 4.0～4.5 の評価を得た。最も高い評価を得たのは「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった」の項目で、最も低い評価を得たのは「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」の項目であった。これはグループワークのことを指していると思われるが、グループワークを高く評価している学生も少なくない。グループワークのよい側面がもっと評価されるように授業を進行させていくことで対応する。</p> |
| 情報処理論 | <p>コンピュータの構成を紹介する際に、実物を準備して、回覧して、見て、触ってもらった。授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。</p> | <p>授業評価アンケートにおいて、「授業の計画について」の項目はいずれも 4.5 以上の高評価を得た一方、「授業の内容について」の項目は 3.8 前後と比較的低評価であった。授業内容の特性上、身近に感じにくい部分が多くあるため、授業内容に関する評価が低くなっていると考えられる。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。</p> |

| | | |
|---------------|--|---|
| 情報科学 | 授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。 | 授業評価アンケートでは、各項目について 3.9～4.6 の評価を得た。最も高い評価を得たのは「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった」の項目で、最も低い評価を得たのは「この授業は興味や関心が持てた」の項目であった。授業内容の特性上、とっつきにくい部分が多くあるので、授業内容の評価が低くなってしまふ。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。 |
| コンピュータネットワーク論 | 授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。 | 授業評価アンケートは、各項目について 3.4～4.8 の評価を得たが、受講者がかなり少ないため、評価としての信頼性は高くないと考える。「授業の内容について」の項目が比較的 low 評価であった。授業内容の特性上、非常に理解しにくい部分があるためである。今後はできる限り分かりやすく解説するように授業を進めていきたい。 |
| コンピュータ科学演習 | Excel 操作の習熟度が低い学生には、気を配って丁寧に説明をした一方、Excel 操作の習熟度が高い学生には追加課題を与えることによって、学生の習熟度に合わせて授業を行った。 | 授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.2 以上の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目が比較的高評価を得た。また、「授業の内容について」の項目のうち、「授業の目標が分かりやすく示されていた」は比較的高評価を得た。その理由として、授業内容が学生の興味と一致しているため、と考えられる。次年度も学生の興味を引く課題を用意して授業を進めたい。 |
| マルチメディア演習 | テキストの内容一つ一つの項目について概説を行い、実際に学生に作業させた。また、テキストの説明は項目 | 授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.1 以上の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目は 4.6 以上 |

| | | |
|-------------|---|--|
| | <p>にすることが書かれているだけなので、前後の項目同士、あるいはページの離れた項目同士の関連について丁寧に説明した。</p> | <p>と比較的高評価を得た。一方、「授業の内容について」の項目は 4.2 前後と他の項目と比較すれば低い評価となった。授業内容の進行上、テキストの説明だけで済ませているところがあるためと考える。できる限り学生の興味・関心を引く授業内容、課題を準備していきたい。</p> |
| プログラミング | <p>ビジュアルプログラミング言語である Scratch を用いた授業時には、他のプログラミング言語を使用する際にも共通して理解しておくべきことを解説しながら授業を進めた。一方、キーボードからタイプしてプログラミングする VBA を用いた授業では、例題を多く用意して、プログラミングの理解を進めた。</p> | <p>授業評価アンケートにおいて、「授業の計画について」の項目はいずれも 4.5 以上の高評価を得た一方、「授業の内容について」の項目は 3.8 前後と比較的低評価であった。受講者が少ないため、評価としての信頼性は高くないと考える。とはいえ、次年度以降も高い評価を得られるよう、学生の興味・関心を引く課題の準備を進めていきたい。</p> |
| Web プログラミング | <p>Web ページの完成例を提示し、HTML を入力、完成させてから、HTML の各要素についての説明を行った。その際、一部を変更することによってどう変化するか、について実演・提示した。</p> | <p>授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.5 以上の評価を得た。特に「授業の開始時間や終了時間は守られていた」の項目が比較的高い評価を得た一方、「この授業は興味や関心が持てた」の項目は比較的低い評価であった。「授業の内容について」の項目の評価は低くないので、次年度はできる限り学生の興味・関心を引く授業内容、課題を準備していきたい。</p> |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

昼礼等を通して身の回りの整理整頓や清掃の重要性を繰り返し説明した結果、HR 教室および学生が使用する机・イスの身の回りは整理整頓された状態を保つことができた。学園祭やミサなど学校行事への参加・協力の大切さを何度も話した結果、例年より参加率が高かった。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

講義系科目は授業内容の特性上、非常に理解しにくい部分がある。できる限り分かりやすく解説するように授業を進めていきたい。

演習系科目は比較的学生の興味を引きやすい。次年度も学生の興味・関心を引く授業内容、課題を準備していきたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

昼礼等の機会を利用して、授業で学ぶ知識・技能以外で一社会人として活躍するために必要なマナーや態度等を具体的に何度も繰り返し説明する。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

伊藤 宏

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 29 日 |
| 所属 | 生活文化学科 |
| 氏名 | 伊藤 宏 |
| 役職 | 副学長・入試部長 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|--------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 日本国憲法 | 生食 | 1 | 前 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 地域社会学 | 全科 | 2 | 前 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 情報コミュニケーション論 | 生文 | 1 | 後 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 情報メディア論 | 生文 | 1 | 後 | 選択 | 2 | 1 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|-----------------|-------|---------|-----|-----|
| 有・ 無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|--------------------|--------------------|
| 入試委員会 | 委員長 ・委員 |
| 自己点検・評価委員会 | 委員長・ 委員 |
| きょう育の和センター | 委員長・ 委員 |
| SD委員会 | 委員長・ 委員 |
| 研究倫理・コンプライアンス推進委員会 | 委員長 ・委員 |
| ハラスメント防止対策委員会 | 委員長・ 委員 |
| 災害対策委員会 | 委員長・ 委員 |
| 衛生委員会 | 委員長・ 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|--------------------------------|---|
| 和歌山県情報化推進協議会 | 幹事長・教育 ICT 部会長 |
| 高等教育共創コンソーシアム和歌山 | 大学等地域貢献促進事業(共同プロジェクト研究) 審査会委員 |
| 和歌山県平和委員会 | 代表理事 |
| 和歌山放送 | 情報番組「ボックス」金曜日コメンテーター |
| 和歌山放送 | 「伊藤宏の脳に効くニュース」コメンテーター |
| 和歌山大学 | SDGs論(いのちと平和) |
| じんけんSCHOLA | 核・原子力と人権 ①福島第一原発事故から 12 年 ②グローバル・ヒバクシャという視点 |
| 和歌山県情報化推進協議会 | 高校教員のための探究学習セミナー主催 |
| 海南海草地区メーデー | 「日本国憲法と労働運動」講演 |
| 和歌山県高齢期運動連絡会総会 | 「平和憲法の危機～改憲と軍拡にひた走る日本～」講演 |
| 海南市中学生対象平和講演 | 怪獣ゴジラから考える戦争と平和 |
| 第 20 回平和のための戦争展・岩瀬須賀川(特別記念講演) | 「ゴジラが伝える戦争と原子力～今、日本が直面している危機～」講演 |
| 日高平和委員会・憲法9条を守り いかす御坊日高連絡会 | 「平和を守るために必要なものは何か～今こそ求められる日本国憲法～」講演 |
| 海南市人権推進市民の会・海南市 市仏教者人権推進協議会 | 「子どもにとっての日本国憲法～怪獣ゴジラから考える人権～」講演 |
| 第 22 回平和だいすき憲法フェスタ | 「どうする日本～大軍拡・大增税の中で憲法を考える」講演 |
| きみの平和を未来につなぐ会 | 「平和を守ることは暮らしを守ること～今こそ活かそう日本国憲法～」講演 |
| 海南海草退職教職員協議会 | 「憲法を護ることは社会を守ること」講演 |

II. 【教育の理念(どのような考えにもとづいて行っているか)】

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マ |
|-------|---------------------------------------|

| | |
|--------|--|
| | <p>リアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>建学の精神ならびに本学の社会的使命に則り、全ての授業において女性として（人間として）の権利意識の醸成、および和歌山県（地元）に対する郷土愛の醸成と地域活動への参加を促すような学びが提供できるように心がけている。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------|-----------------------------------|-------------------------------|
| 日本国憲法 | テキストを主体に、時事問題や怪獣ゴジラ等を盛り込みながら、条文の理 | 授業評価の結果から、概ね期待した成果が得られたものとする。 |

| | | |
|--------------|---|---|
| | 解を深める提示資料を準備した。 | |
| 地域社会学 | 和歌山県および市町村についての関心と理解を高めるためにゆるキャラなどを活用した提示資料を準備した。また、RESAS を活用した取り組みも実施した。 | 授業評価の結果から、概ね期待した成果が得られたものとする。データ利活用については、まだまだ改善の余地があると実感した。 |
| 情報コミュニケーション論 | コミュニケーションの理論についての解説等は最小限にとどめ、可能な限り実例を盛り込んだ提示資料を準備した。 | 授業評価の結果から、概ね期待した成果が得られたものとする。 |
| 情報メディア論 | 講義を通してメディアに関する様々な問題を学びながら、自ずとメディアリテラシーが身に着くような提示資料を準備した。 | 授業評価の結果から、概ね期待した成果が得られたものとする。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

委嘱者や受講者の要望に可能な限り応え得るような教材を準備して臨んだ。
概ね、好評価を得られたと思われる。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

講義形式ではあるが、極力学生と双方向の授業となるように心がける。
また、ICT の利活用を一層進めた授業内容を再構築する。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

学外の講座、講演を引き続き積極的に引き受けていく。また、外部委員の依頼等があれば、積極的に引き受けていく。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

- ・ 2023 年度 じんけんSCHOLA受講案内
- ・ 探究学習セミナー開催告知
- ・ 和歌山大学「SDGs論」シラバス

雨夜 真規子

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|--------------|
| 提出日 | 2024・3・18 |
| 所属 | 生活文化学科生活文化専攻 |
| 氏名 | 雨夜 真規子 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|----------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 秘書学概論 I | 生文 | 1 | 前期 | 必修 | 2 | 1 | 100 分 |
| 秘書学概論 II | 生文 | 2 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 秘書実務 I | 生文 | 1 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 100 分 |
| 秘書実務 II | 生文 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 会計学 | 生文 | 2 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 消費生活論 | 生文 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 生活文化論 | 生文 | 2 | 前期 | 必修 | 2 | ※ | 100 分 |
| 生活文化ゼミ | 生文 | 2 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 100 分 |

※オムニバス形式:全 14 回のうち 2 回を担当

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | ①・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|--------------------|---------|
| 入試委員会 | 委員長(委員) |
| 研究倫理・コンプライアンス推進委員会 | 委員長(委員) |
| キャリアセンター委員会 | 委員長(委員) |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|------------|---------|
| 秘書検定直前対策講座 | 6月・2月 |
| SPI 対策講座 | 4～6月 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|-------------------|
| 桃山学院大学 | 労働法 A・B、社会保障法 A・B |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】</p> <p>建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】</p> <p>建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】</p> <p>建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に</p> |

| | |
|----|---|
| | 適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。 |
| 個人 | ビジネス社会で通用する実践的なスキルや思考を身に付けさせることを常に意識している。併せて、深い教養を備えた人材の育成を目指し、学術的観点から自身の研究分野をはじめとして幅広い分野につき情報提供を行うとともに、学生との議論の機会を設けるよう努めている。 |

Ⅲ.【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------|---|--|
| 秘書学概論Ⅰ | テキストを参照しつつ、主に教員作成のパワーポイントのスライドを活用することにより、より実践的な情報を示した上で、学生が集中力を維持できるよう工夫した。 | 学生は、ビジネス現場で役立つ実践力を身につけられたと感じているようであった。 |
| 秘書学概論Ⅱ | ※不開講 | |
| 秘書実務Ⅰ | ビジネス現場で即戦力として対応できるよう、あらゆるパターン of ビジネス文書作成の演習及び解説に特化した。 | ほとんどの学生が、典型的なビジネス文書の作成方法を概ね習得することができた。 |
| 秘書実務Ⅱ | ※不開講 | |
| 会計学 | テキストを参照しつつ、毎回教員オリジナルのスライドを用いて、会計の基本について詳しく解説した。また、学期末にはオリジナルの復習プリントを作成し、それを使って集中的に復習及び補充インプットをする時間を設け、演習による知識の定着を図った。 | 会計や会社のしくみは当初難しいイメージがあったようだが、それらがよく理解できたという反応がみられた点は、授業運営における工夫が奏功したといえる。 |
| 消費生活論 | 社会保険(医療保険、年金、雇用保険、労災保険)を中心に、金融や法律に関して日常生活で役立つと思われるトピックを取り上げ、基本的事項について説明した。 | 日常生活やビジネス社会で必要とされる左記の知識を概ね習得できた。 |

| | | |
|--------|---|--|
| 生活文化論 | 本科目はオムニバス形式であるところ、労働法および社会保障法に関する分野を計 2 回担当した。卒業後のみならず、学生アルバイトとしても知っておくべきワークルールの基本的かつ重要な部分の知識の修得に資するよう、また、社会人として知っておくべき社会保険のしくみについて、具体的かつ詳細に解説した。 | 労働法や社会保障法に関する基本的な知識を得て、それらの知識を身に付けることの重要性を実感したようであった。 |
| 生活文化ゼミ | 地元和歌山に貢献する人材の育成を視野に、地域振興に資する方策を考え、とりまとめた。具体的には、県外の大学生らが和歌山県に旅行に行きたいと思うような、工夫に富んだ旅行パッケージを策定した。その一環として、ゼミ生全員でフィールドワーク(現地調査)も実施した。 | 地元の魅力を改めて発見し、それを県外者にいかにアピールすれば効果的であるかを検討することができた。この経験は、社会人となって顧客の立場でよりよいサービスを考える上で有用と思われる。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

秘書検定対策講座を実施した結果、1 年生において 2 級合格者を増加させ、また、1 年生から準 1 級合格者を出すことができた。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

- ・秘書検定 2 級・準 1 級合格者の増加を目指す
- ・秘書検定 1 級の合格者を出す
- ・その他のビジネス系資格、登録販売者等の資格取得を支援し、初の合格者を出す

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

- ・実務家のゲストスピーカーによる講演等の実施を目指す

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス

- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)

成田 仁美

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 生活文化学科生活文化専攻 |
| 氏名 | 成田仁美 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|-----------------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 家政学概論 | 生・生 | 1 | 前 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| フードコーディネイト | 生・生 | 2 | 通 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 調理実習 I | 生・生 | 1 | 後 | 選択 | 1 | 1 | 3 |
| 生活文化論 | 生・生 | 2 | 前 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| 生活文化ゼミ | 生・生 | 2 | 後 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| ファッション・ブライダルコーディネイト I | 生・生 | 1 | 前 | 選択 | 2 | 1 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担任・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 学務 | 委員長・委員 |
| 教務 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| 特記事項なし | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| | |
|------------|------|
| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
| 特記事項なし | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>健康的で幸福な生活を送るために必要となる生活に関わる知識の習得と思考力を培い、社会環境の変化に適応しながら自分らしい生活の実現に向けて実践し続けられるような人を育成する。</p> |

III. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|------------|--|--|
| 家政学概論 | <p>衣・食・住に関する基礎的知識の習得や生活に関わる課題解決への思考力を身に付けられるようにすることに指導の重点をおいている。</p> <p>毎時間、授業の内容をまとめた資料をGoogle Classroomに掲示するとともに、必要に応じてホワイトボードへ板書をする事で、基礎的知識をわかりやすく教授した。また、設定した生活課題を解決に導くための方法論を教授することによって、思考力をはたかせることが出来るようにした。</p> | <p>学生による授業評価アンケート(回答率 76%)の結果、授業の計画、授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する項目は、生活文化専攻の科目平均と同程度であった。項目8「学生の理解に合わせて授業が進められていた」と項目9「教科書、板書、配布資料、視覚教材、実演などは授業内容の理解に役立った」は相関係数が0.907と、高い相関関係を示していた。また、項目9と項目11「学生の質問に対して適切に対応していた」の相関係数についても0.815と、高い相関関係を示していた。</p> <p>自由記述欄に記入した15名の学生のうち、暮らしに役立つ知識が身に付けられたと記述した学生が6名、生活に関わる思考力を育めたと記述した学生が3名いた。以上より、毎授業で、Google Classroomに資料の掲示をするとともに必要に応じて板書をする事で、生活に関わる基礎知識の習得と思考力に関して、一定の成果が得られたといえる。</p> |
| フードコーディネイト | <p>食に関する「文化」「科学」「デザイン・アート」の基本について習得することを目標に、グループワークや演習を取り入れながら、フードコーディネーター3級に求められる知識や技術を教授した。</p> | <p>学生による授業評価アンケート(回答率 100%)の結果、授業の計画に関する項目以外の授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する項目において、生活文化専攻の科目平均を上回る高い評価を得た。自由記述欄に記述した学生は1名で、「フードコーデ</p> |

| | | |
|--------|---|--|
| | | イネイトのことがよく分かった」と述べている。授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する評価が高かった理由として考えられるのは、学生の理解度に合わせながら進行できたこと、学生の興味関心を引き出しながらできたことが挙げられる。履修者が 4 名と少数であったために、きめ細やかな指導ができた。 |
| 調理実習 I | 基礎的な調理技術や食品の知識を習得し、「適量の食生活」に活かせる力を養うことに重点をおいている。人グループ4名程度のグループワーク形式で自分の役割を把握し、協調性を培えるように教授した。 | 学生による授業評価アンケート(回答率 57%)の結果、授業の計画、授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する全ての項目において、生活文化専攻の科目平均を上回り、ほとんどの項目において 5 点満点評価中 5 点を得た。自由記述欄に記入した学生は2名で、「必要なことが実践できた」「料理嫌いだったけど最後は上手になることができた」と述べている。履修者が 7 名と少人数であったので、きめ細やかな指導ができたことにより、高い成果を得ることができた。 |
| 生活文化論 | 生活文化専攻の教員によるオムニバス形式で行う科目で、全 14 回のうち 2 回分を担当した。生活文化に関する知識や和歌山地域の特性を「災害食」の観点から教授し、防災への意識向上を図るとともに、家庭や地域のために自分ができることを実践しようとする態度を養うことに重点をおいた。 | 学生による授業評価アンケート(回答率 77%)の結果、授業の計画、授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する全ての項目において、生活文化専攻の科目平均をやや下回った。自由記述欄に記入した学生は5名で、「5 人の先生から幅広い知識を学べた(3人)」「これからの生活について学べた(2人)」と述べている。以上より、一定の成果が得られたといえる。 |
| 生活文化ゼミ | 食に関わる研究課題を設定し、準備、現地調査、分析、考察の順に作 | 学生による授業評価アンケートの結果を受け取っていないため、主観的な評 |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| | <p>業に取り組み学生論集にまとめるまでの指導に携わった。</p> <p>研究課題は、学生の興味関心に沿って決定し、課題解決に向けて調査、分析、考察ができるように助言した。</p> | <p>価になるが、テーマの設定、現地調査、調査結果のまとめまでの作業をグループで役割分担をして円滑に進行し、仕上げる事ができていた。充実した研究成果が出せるまでに至らなかったため、課題を解決するための方法論等の見通しの立て方についてより積極的に助言する必要がある。</p> |
| <p>ファッション・ブライダルコーディネート I</p> | <p>ファッションに関する基礎的な知識を理解することに指導の重点をおいている。</p> <p>トレンドのファッションコーディネートの基本をおさえつつ、ウェディングドレスの選定に関する知識を習得できるようにする。また、好印象を与えるメイク、ブライダル施設の見学、浴衣の着装など、実践的に学べるような授業構成にしている。</p> | <p>学生による授業評価アンケート(回答率 55%)の結果、授業の計画、授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する全ての項目において、生活文化専攻の科目平均を上回り、ほとんどの項目において 5 点満点評価中 5 点を得た。自由記述欄に記入した学生は 3 名で、「将来の就きたい仕事への理解が深まった」や「学べてよかった」と記述している。以上より、学生満足度の大変高い授業であったと評価することができる。</p> |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

特記事項なし

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

生活に関わる基礎的知識の習得を促すために、授業の内容をわかりやすくまとめた資料の提示をするとともに、具体例を提示することによって自分や家族の事として受け止められるように教授することを心掛けたい。また、今後の社会環境の変化に適応していく力を身に付けられるようにするには、思考力を養う必要がある。そのためには、スモールステップで段階的に適切な課題を設定することと、課題解決に導く方法論等の見通しを立てられるように、教授することを心掛けたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

授業にかかわる内容を実生活や学校生活に活かそうとする学生を支援するよう心掛けたい。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

山本 桂子

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 14 日 |
| 所属 | 生活文化学科 |
| 氏名 | 山本 桂子 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|-------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| キャリアデザイン I | 生文 | 1 | 前 | 必 | 2 | 1 | 100 |
| キャリアデザイン II | 生文 | 1 | 後 | 必 | 2 | 1 | 100 |
| キャリアデザイン | 保育 | 2 | 前 | 選 | 2 | 1 | 100 |
| プレゼンテーション技法 | 生文 | 1 | 前 | 選 | 2 | 1 | 100 |
| 地域人材育成論 | 生文 | 1 | 後 | 選 | 2 | 1 | 100 |
| 人間関係論 | 生文 | 2 | 後 | 選 | 2 | 1 | 100 |
| キャリアの心理学 | 生文 | 2 | 後 | 必 | 2 | 1 | 100 |
| 医療事務概論 | 生文 | 1 | 前 | 選 | 2 | 1 | 100 |
| 医療事務演習 | 生文 | 1 | 前 | 選 | 2 | 1 | 100 |
| 生活文化論 | 生文 | 2 | 前 | 必 | 2 | オムニ | オムニ |
| 生活文化ゼミ | 生文 | 2 | 後 | 必 | 2 | 1 | 100 |
| インターンシップ | 生文 | 1 | 集中 | 選 | 1 | | |
| 医療事務 | 生文 | 1 | 集中 | 選 | 2 | | |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 入試 | 委員長・委員 |

| | |
|-------|--------|
| 進路・就職 | 委員長・委員 |
|-------|--------|

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】</p> |

| | |
|----|--|
| | 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。 |
| 個人 | 社会に出てから自分で考えて行動できるよう、学生の自己肯定感、自己効力感の向上を目指した教育を行う。 |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|---------------|--|---|
| キャリアデザイン Ⅰ | インターンシップ参加を意識した内容であるが、入学して間もない1年生がお互いに知り合せて認め合えるような関係性に貢献できる授業を目指し、グループワークを多くした。 | アンケートで多かったのは、自分と向き合い自分のことを理解できたことが良かったという声であった。また、グループワークが多くて良かったとの声も複数あった。回を重ねるごとに学生同士の関係性ができていくのが感じられた。 |
| キャリアデザイン Ⅱ | 就職活動を意識した内容でありつつ、社会に出てからの自分もイメージできるようなことも含めた。グループワークを多く取り入れ、価値観の違いや自分の得意な役割などを実感してもらえるようにした。 | アンケートでは、グループワークが多くて良かったという声、資料や説明がわかりやすく就職活動のことがわかってよかったという声などがあった。実際にグループワークでは発言しない学生はおらず、全員参加できていた。 |
| キャリアデザイン | 就職活動に限定した授業ではなく、社会に出てから役に立つような内容にし、実践力向上を目指した。 | アンケートでは自己分析ができて良かったとの声、マナーを実践できてよかったという声があった一方で、保育科の先生からのお話も聞きたかったとの声もあった。 |
| プレゼンテーション技法 | パワーポイントを使ったプレゼンテーションのスキルではなく、その前段階の「人と関わり思いを伝える」という部分の理解に特に力を入れ、形だけのプレゼンにならない意識づけを行った。 | アンケートでは、アナログなプレゼンの練習は新鮮であったとの声があった。半面、回数は少なくとも良いのでパワーポイントでの発表もしてみたかったとの声もあり、次回への課題となった。 |
| 地域人材育成 | 学外の方と話す機会を増やす取り組み | アンケートでは、地元の産業を調べる |

| | | |
|----------|---|--|
| 論 | みとしてゲスト講師を招いたほか、地域の企業への見学を行い、地域で働く意欲向上に努めた。 アクティブラーニング形式で、学生が自主的に調べたり振り返ったりする機会を設けた。 | のが楽しかったという声や、見学することで理解が深まったという声、グループワークが多くて良かったという声などがあった。ゲスト講師の授業でも講師との関わりに積極的であった。 |
| 人間関係論 | 理論のみではなく実践的な内容を組み込むことで、職場での人間関係にも生かせるようにした。毎回授業開始時に前回の復習と今回の内容とのつながりがわかるレクチャーを入れた。 | アンケートでは前回の復習がありわかりやすかったという声や、社会に出て必要なコミュニケーションが身につけられたとの声があった。課題のプレゼンでは、意欲的な取り組みが見られた。 |
| キャリアの心理学 | 毎回の授業終了時に小テストを行い、授業内容の定着を図った。また、学生が提出したワークシートに書かれていたことの紹介を行い、承認欲求に働きかけた。 | 小テストのおかげで内容を振り返ることができたとの声や、社会人になる前に自分の価値観や未来の目標を考えることができて良かったとの声があった。ワークシートには積極的な取り組みが見られ、将来のことをあれこれ考えていることが垣間見れた。 |
| 医療事務概論 | 内容的に難しいと感じる学生も一定数いるが、全体としては期間内に全ての内容が終わるよう、スピード感を持ってすすめ、理解しにくい点については質問を受け付けた。 | アンケートでは、内容が難しかったという声が多かったものの、説明がわかりやすかったという声、自宅学習をしてついていくことができたとの声もあった。 |
| 医療事務演習 | 練習問題を多く解いてもらうことで、知識の定着を図った。 | アンケートではスピードが速いという声も多かったが、難しい内容だったがそれを続けたからこそ知識がついたという声もあった。 |
| 生活文化論 | 担当回(3回)では、学生が将来直面するであろう問題について、情報提供や、自分の意見を持つことの大切さを伝えた。 | アンケートでは、いろいろな内容を学べて後期のゼミを考える機会にもなったとの声があった。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| |
|--|

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| |
|--|

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

真砂 みづほ

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 27 日 |
| 所属 | 生活文化学科 生活文化専攻 |
| 氏名 | 真砂 みづほ |
| 役職 | 助手 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| | | | | | | | |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|----------|--------|
| 学生部 | 委員長・委員 |
| キャリアセンター | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|-------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって |
|-------|---|

| | |
|--------|--|
| | 神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------|-------------------------|----------------------|
| | | |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

| |
|--|
| |
|--|

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| |
|--|

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| |
|--|

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

森岡 美帆

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 5 日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 森岡美帆 |
| 役職 | 准教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 栄養教育論 I | 食 | 1 年 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 栄養教育論 II | 食 | 1 年 | 後期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 栄養教育論実習 I | 食 | 1 年 | 後期 | 必修 | 1 | 3 | 3 |
| 栄養教育論実習 II | 食 | 2 年 | 後期 | 選択 | 1 | 3 | 3 |
| 公衆栄養学 | 食 | 2 年 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| ライフステージ栄養学 | 食 | 1 年 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 栄養学各論実習 | 食 | 2 年 | 前期 | 選択 | 1 | 3 | 3 |
| 調理学 | 食 | 1 年 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 校外実習指導 | 食 | 2 年 | 通年 | 選択 | 1 | 1 | 1 |
| 健康管理概論 | 生・食 | 2 年 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| キャリアデザイン | 食 | 2 年 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 基礎演習 | 食 | 2 年 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 医療秘書実務実習 | 食 | 2 年 | 前期 | 選択 | 1 | 集中 | 集中 |
| 卒業研究 | 食 | 2 年 | 後期 | 必修 | 2 | 3 | 3 |
| 子どもの食と栄養 | 保 | 2 年 | 前期 | 選択 | 2 | 4 | 4 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担任・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 担任 | 食 | 2 | |

③ 委員会等の活動

| | |
|---------|-----|
| 委員会等の名称 | 役職 |
| 学務委員会 | 委員長 |
| 教務部 | 委員 |
| 就職委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------------|---------|
| 管理栄養士国家試験対策講座 | |
| 栄養教育論 | 6月3日 |
| 公衆栄養学・ | 8月5日 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 和歌山県 | 和歌山県食育推進会議専門委員(和歌山版「食事バランスガイド」検討会) |
| 和歌山市 | 和歌山市食育推進会議委員(会長) |
| 和歌山県農業協同組合連合会 和歌山特別栽培農産物推進協議会 | 和歌山特別栽培農産物認委員会認証委員 |
| 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 | 評議員 |
| 一般社団法人 日本栄養学教育学会 | 代議員 |
| 公益社団法人 和歌山県栄養士会 | 生涯教育研修会 講師 |
| 公益社団法人 和歌山県栄養士会 栄養ケア・ステーション | 特定保健指導後の栄養教室 講師 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|-------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの |
|-------|---|

| | |
|--------|--|
| | 尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | 【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。 |
| 個人 | 栄養士業務の根幹である「栄養の指導」の分野において、管理栄養士・栄養士倫理綱領を十分に理解してもらい、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を使命として、管理栄養士としての責務を果たす。 |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|---------|---|---|
| 栄養教育論 I | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行っていることが、評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。大半の学生が、目標が明確で、授業の進行速度</p> | <p>・授業評価について、3.90 から 4.50 で平均 4.24 であった。「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」以外は、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.85 以上の項目は、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」で 0.858 であった。</p> <p>・自由記載について、「毎回授業の目標があったので目的がわかってやりやすかった。」「Classroom で小テストをするおかげでいつでも見返すことができ</p> |

| | | |
|-----------------|--|--|
| | <p>がちょうどよいと回答していたが、教科書のどの範囲か分からない時があるという自由記載があったので、教科書のページ数をパワーポイントに記載するようにする。興味、関心がないと意欲的に取り組むことができていないことが判明し、学んでいる内容と将来の関わりについて考える機会が高くなると、授業への興味関心が高くなる傾向にあると言われているので、将来の関わりについて具体的に提示するように授業内容を検討する。</p> | <p>た。」「これから栄養士になる時に役立つことばかりだった。」「とてもわかり易く楽しかった。板書のペースも学生に合わせてくださり、書きやすく集中して授業を受けることができた。」</p> <p>目標を提示して、学生の理解度に合わせた授業を心がけたところは評価されていた。これから栄養士になるため役立つ内容だったというコメントがあり、将来の関わりについて具体的に提示したことが評価に繋がっていると考える。Google フォームでの確認テストについて、採点が厳しいことに不満を持つ学生がいたので、改善する。</p> |
| <p>栄養教育論 II</p> | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>学生の理解度に合わせた授業を心掛けたことによって、高評価が得られており、継続していくようにする。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.22 から 4.65 で、平均 4.46 で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.90 以上の項目は、「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」と「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」で 0.939 であり、「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 0.918 であり、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.918 であった。</p> <p>・自由記載について、「はじめに今日の目標が提示されていたのでこれから学ぶ内容が分かりやすかった。」「スライドで要点がまとめられていて分かりやすかった。」「声をはきはきと大きく聞こえやすかったです。」</p> |

| | | |
|------------------|---|--|
| | | <p>スライドが黒字だけなので、色を加えてくれるとさらに分かりやすいので、色を加えてください。」「興味が湧く授業であった。」</p> <p>目標が提示されていること、興味を持つことができる内容であったことが評価されていた。スライドで重要な点を分かりやすくする方法を検討する。</p> |
| <p>栄養教育論実習 I</p> | <p>目標を提示する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>分からないところを気軽に質問できる雰囲気づくりに努め、学生の理解度合いをじっくりと確かめながら進めたことで、高評価を得られたので、同様に実施していくようにする。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.26 から 4.64 で、平均 4.43 で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.90 以上の項目は、「教員の言葉は、聞き取りやすかった」と「学生の理解に合わせて授業が進められていた」で 0.915 であり、「この授業は興味や関心が持てた。」と「この授業は自分のためになる内容だった。」で 0.9 であった。</p> <p>・自由記載について、「レポートを毎回書くことで自分の考えたことを文章にする力が身についたと感じる。」「授業の始めにするフィードバックが良かった。」「栄養士になりたい人にとってとても役に立つ実習だなと思った。」「毎回書いていた日誌のおかげで授業中も理解しようと思った。クラスは仲間ということにも気づくことができた。」「社会に出たら、役に立つばかりでよかった。席が毎回違い、声を必然的に出す授業を行なって、実践的なことが学べてよかった。」</p> <p>実践的なことが学べて、実習日誌の書き方等も身につけることができたという評価であった。実習室の後方で、スク</p> |

| | | |
|-----------------|--|---|
| | | <p>リーンが見えにくかったということがあり、次年度は改善していく。実習日誌のフィードバックによって、スキルがアップした学生が多かった。しかし、どのように書いたら良いのか十分に理解していない学生へのアプローチが必要であると考え。</p> |
| <p>栄養教育論実習Ⅱ</p> | <p>目標を提示する。 資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。 開講期を前期から後期に変更したので、各自が作成する栄養教育媒体の作成スキルをアップするように検討する。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.42 から 4.86 で、平均 4.64 で、概ね高い評価であった。 ・相関係数が 0.90 以上の項目は、「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 0.951 であり、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」で 0.949 であり、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」0.949 であり、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」と「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」で 0.922 であり、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」と「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」で 0.906 であり、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」0.902 であった。 ・自由記載について、「この授業でリーフレット作成や発表などをして、普段することのないことができて良い経験になった。」、「実践講義がたくさんあった</p> |

| | | |
|-------|--|--|
| | | <p>め、普段の講義で聞くよりも自分自身が身を持って体験を行うことができたのでより理解を深めることが出来たと思う。「授業開始してすぐに今日の目標とってその日にすることを示してくれたので、その後の授業も何をしているのか分かり、すごく理解しやすい授業だった。」</p> <p>栄養教育の媒体づくり、自己・他者評価など、2年間の集大成となる内容で、多くのことを学ぶことができたという評価であり、今後も継続していく。</p> |
| 公衆栄養学 | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行っていることが、評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.32 から 4.84 で、平均 4.59 で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.80 以上の項目は、「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」と「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」で 0.838 であり、「この授業は興味や関心が持てた。」と「この授業は自分のためになる内容だった。」で 0.825 であった。</p> <p>・自由記載について、「1つ1つの項目に対し丁寧に説明をし、大切なところを話して下さったので分かりやすかった。」、「スライドの字が見やすかったり、携帯のクラスルームに出してくれたりしてとても見やすかった。」、「授業のフォーマットが一貫してあったので、とても取り組みやすかった。」、「毎回の講義で目標が設定されていたので、ノートを見返した際、〇月〇日にどのような講義を行ったのか分かりやすかった。また、講義で使用した pdf をクラス</p> |

| | | |
|---------|---|---|
| | | <p>ルームに掲載してくださっていたので、いつでも見直すことができたところが良かった。」</p> <p>目標の提示により、内容の理解がしやすいという評価であった。Google Classroom を用いての資料提示も見直すことができやすいという評価であった。</p> |
| 栄養学各論実習 | <p>目標を提示する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>丁寧な説明で、学生が安心して授業を受けられると感じると、意欲的に取り組むことにつながっているの、同様に学生の理解度合いを確認しながら進めていく。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.49 から 4.76 で、平均 4.64 で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.90 以上の項目は、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.905 であり、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」で 0.903 であった。</p> <p>・自由記載について、「どんな食事の形態があるかの授業で実際にサンプルを見せてくださり、とても分かりやすい授業だった。」「一回一回の授業で何か一つ学び、何か一つ出来るようになった気がして、栄養士になる為に必要なことを学べた気がしてよかった。」「全体の理解度に合わせて進められていたので、過去の疑問について解消され献立作成等取り組みやすくなったと感じる。しかし、復習に時間がかかり、本来行う予定であった実習が出来なかったのが少し残念に思えた。」「毎回の学習日誌は大変だったが、振</p> |

| | | |
|--------|--|--|
| | | <p>り返りにもなり、今後の役に立つと思うので良かった。」、「献立作成のおかげで基準値にできるだけ合わせるという力をつけることができた。」、「目標が毎回明記されていてわかりやすかった。加えて生徒の質問にもわかりやすく答えてくださりとても助かった。」</p> <p>学生の理解度に合わせて、確認しながら進めたことで、内容をしっかりと理解できるようになったという評価であった。献立作成の考え方、校外実習につながる実習日誌の書き方、栄養士になるために必要なことを修得できたという評価であった。調理に関する実習の回数について検討が必要と考える。</p> |
| 健康管理概論 | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行い、授業の振り返りを入力してもらうことが評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.50 から 4.92 で、平均 4.66 で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.85 以上の項目は、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.908 であり、「学生の理解に合わせて授業が進められていた」と「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」で 0.893 であり、「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.883 であり、「この授業は自分のためになる内容だった。」と「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」で 0.867 であった。</p> |

| | | |
|----------|--|---|
| | | <p>・自由記載について、「1年生から学んできたことの再確認にもなった。」、「スライドの文字が大きく、ノートにうつしやすかった。また、何を今勉強しているのかを授業の最初に今日の目標を立てていただくことで明確になり、授業を受けることができた。」、「日常生活に役立つ知識がたくさん学べる授業でした。特に生活習慣病についてはその要因や基準値などを知り、自らがわからないようにする知識をたくさん吸収できて良かった。」、「短時間での文章作成能力が身についた。」</p> <p>1年次に学んだ内容の確認ができたこと、日常生活につながる内容であったこと、目標の提示による理解のしやすさ等が評価された。</p> |
| キャリアデザイン | <p>栄養士実力認定試験過去問題集を教科書として採用して、前期から各自が取り組むことができるようにする。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.11から4.56で、平均4.36で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が0.85以上の項目は、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で0.946であり、「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」と「学生の理解に合わせて授業が進められていた」で0.878であり、「授業に集中できる環境、雰囲気整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた」で0.866であった。</p> <p>・自由記載について、「これまで学んだことの重要点が復習できて良かった。」、「教科ごとに分かれ先生方が詳しく解説してくれたため、1回の講義で</p> |

| | | |
|-----|--|--|
| | | <p>十分に復習できたところが良かった。</p> <p>改善してほしい点は、時間が足りず最後まで説明が聞けなかった講義があったり、社会福祉概論や公衆衛生学などの非常勤の先生方の講義がなかったりし、説明を聞くことができなかつたためそこを改善してほしい。」</p> <p>各分野の教員が、分かりやすく解説したことが評価されていた。栄養士実力認定試験では、本学上位3名は、全国で23位66位147位と優秀な成績であった。認定証Aの割合が67.6%であり、全員が認定証Aを取得できるように内容を検討する。</p> |
| 調理学 | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>科学的な視点をもって、授業に取り組むことができる内容を検討する。</p> | <p>授業評価について、3.74 から 4.70 で平均 4.21 であった。「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」以外は、概ね高い評価であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相関係数が 0.80 以上の項目は、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」と「授業に集中できる環境、雰囲気整っていた」で 0.819 であった。 自由記載について、「授業や説明は分かりやすかった。授業の中で何が重要なかがしっかりと伝わった。」、「スライドがあったので、よかったです。授業目標があったので、今日取り組む内容が分かりやすかったです。 <p>小テストが Classroom でしてくれたので、後から見返しやすくてよかった。」</p> <p>「小テストの採点が厳しかった。Google フォームでやるなら順不同になるような問題を出すべきでないと思う。」、「スマ</p> |

| | | |
|------------------------|---|--|
| | | <p>ートフォンで確認テストを行うのは微妙だった。答えが記入しづらいし、私は実際に書く方が頭に入りやすいと感じた。」</p> <p>目的を明確に示していたので、分かりやすい授業との評価が得られた。Google フォームを使用している確認テストでは、採点が厳しいことに不満を持った学生がみられた。また、後から見直すことができるということを評価している学生とプリントの方がよいという学生がいた。Google フォームの採点を改善するようにする。</p> |
| <p>ライフステージ 栄養学</p> | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> <p>ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理に関する基礎的知識を理解し、生活習慣による影響にしっかりと修得できるように内容を検討する。</p> | <p>授業評価について、各項目は、4.20 から 4.65 で、平均 4.43 で、概ね高い評価であった。</p> <p>・相関係数が 0.85 以上の項目は、「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」と「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」で 0.892 であり、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」0.869 であり、「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」で 0.863 であり、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた」で 0.857 であり、「この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。」と「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」で 0.85 であった。</p> |

| | | |
|----------|--|--|
| | | <p>・自由記載について、「この授業を通して自分の生活に足りていないものがたくさんわかった。」、「ライフステージ別にそれぞれ詳しく、どんな特徴や課題があり、どんな食事をすれば良いかなど、興味深い授業をしてくれて学習するのがおもしろかった。」、「先生が体験談をまじえながら授業をしてくれるので、楽しみながら授業を受けることができた。」、「図がスマホでも見られて良かった。」、「小テストをしてくれているから前回の復習ができて良かった。厚生労働省とかのサイトとか見せてくれて理解が深まった。」</p> <p>体験を含めた内容の説明で、興味を持って授業に取り組むことができたという評価であった。Google フォームを用いた確認テストでは、前回の振り返りがしっかりとできたという評価であり、継続していく。</p> |
| 子どもの食と栄養 | <p>目標を提示する。</p> <p>前回の振り返りのために Google フォームによる確認テストを実施する。</p> <p>資料の PDF、関連 Web ページの URL を Google Classroom にアップする。</p> | <p>授業評価について、A クラスでは、各項目が 4.25 から 4.72 で、平均 4.43 で、概ね高い評価であった。B クラスでは、各項目が 3.39 から 4.48 で、平均 3.85 で、「この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。」「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」の項目は、評価が高かったが、その他の項目は、4.00 未満で、特に、「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」が 3.39 であった。A クラスと B クラスで、同様の授業を実施している</p> |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>が、一方のクラスで、評価が高く、一方のクラスで、評価が低い項目がみられた。</p> <p>・相関係数が A クラスで 0.90 以上の項目は、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」で 0.939 であり、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 0.923 であった。B クラスで、0.85 以上の項目は、「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」と「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」で 0.891 であり、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.876 であり、「この授業は興味や関心が持てた。」と「この授業は自分のためになる内容だった。」で 0.874 であり、「この授業は興味や関心が持てた。」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.874 であり、「この授業は興味や関心が持てた。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 0.872 であり、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 0.864 であり、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」で 0.852 であった。</p> |
|--|--|---|

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>・自由記載について、「子どもの食の課題についてほとんど知らなかったので、詳しく学ぶことができて良かったです。今回学んだことを生かして、保育者になった時に役に立てていきたい。」「毎回、授業の目標が示されていたので意欲を持って取り組めた。」「厚生労働省や国の PDF をクラスルームにあげてくれていたので、見やすかったです。また、自分ではなかなか調べようと思う機会が無い指針なども授業で取り上げてくれたのでとても勉強になった。」「進みが早く授業についていだけで精一杯だったので、理解を深める為にももう少しゆっくりして欲しかった。」「話が多く、内容が濃いため 1 度で理解するのが難しかった。」 次年度は、授業を担当しない。</p> |
|--|--|--|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

・Web ページ掲載、専門誌執筆、学内外の講座等を通じて、「栄養の指導」を実施することができた。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

・明確な目標の提示が、学生の理解度を上げているので継続する。
 ・フィードバックが機能している学生が大半であるが、機能していない学生へのアプローチの方法を検討する。
 ・Google フォームを用いた確認テストは、大半の学生にとって、いつでも復習を行うことができるので、評価されているが、採点方法に不満がみられたので改善する。
 ・今年度、将来の関わりについて具体的に提示するように授業内容を検討したことが評価されたので、継続する。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

・ICTを活用して分かりやすい教材を作成して、学内外での講座の充実を図る。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

岡井 明美

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 8 日 |
| 所属 | 生活文化学科 食物栄養専攻 |
| 氏名 | 岡井 明美 |
| 役職 | 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 校外実習指導 | 食物 | 2年 | 前期 | 選択 | 1 | 1 | 1 |
| 臨床栄養学実習 I | 食物 | 2年 | 前期 | 必修 | 1 | 3 | 3 |
| 給食管理 | 食物 | 1年 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 基礎演習 | 食物 | 1年 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 医療事務サービス総論 | 食物 | 2年 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 臨床栄養学各論 | 食物 | 2年 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 医療秘書実務実習 | 食物 | 2年 | 前記 | 選択 | 1 | 集中 | 集中 |
| 卒業研究 | 食物 | 2年 | 後期 | 必須 | 2 | 3 | 3 |
| 臨床栄養学概論 | 食物 | 1年 | 後期 | 必須 | 2 | 2 | 2 |
| 医薬と検査 | 食物 | 2年 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 臨床栄養学実習 II | 食物 | 2年 | 後期 | 選択 | 1 | 3 | 3 |
| キャリアデザイン | 食物 | 2年 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 担 | 食物 | 1 | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|------------------|----|
| 教務部(FD 教学IR 委員会) | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|-------------|------------|
| 管理栄養士受験対策講座 | 2024年1月13日 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 和歌山医大保健看護学部 | 食の科学(臨床栄養):前期授業6回 |
| 和歌山医大保健看護学部 | 食の科学演習(臨床栄養):後期授業14回 |
| 国保野上厚生総合病院附属看護専門学校 | 栄養学:後期授業15回 |
| 公益社団法人日本栄養士会 | 災害支援チームリーダー(JDA-DAT) |
| 公益社団法人和歌山県栄養士会 | 副会長 和歌山県栄養士会 栄養ケア・ステーション代表 |
| 和歌山県糖尿病協会 | 副会長 |
| 日本病態栄養学会 | 学術評議員・代議員 |
| 和歌山県糖尿病療養指導士(WL CDE)認定委員会 | 委員 |
| 和歌山県糖尿病協会わかやま壱型の会 | 幹事 |
| 和歌山県糖尿病対策会議 | 委員 |
| 和歌山県薬事審議会 | 委員 |
| 和歌山県防災会議 | 委員 |
| 海南市糖尿病性腎症重症化予防 | 糖尿病性腎症重症化予防プログラムによる保健指導 |
| 紀美野町糖尿病性腎症重症化予防 | 糖尿病性腎症重症化予防プログラムによる保健指導 |
| 一般財団法人和歌山県老人クラブ連合会 | 令和5年度「健康づくりリーダー養成講座」 |
| 和歌山市保健所糖尿病予防教室 | 特定健診受診者および特定健診担当者へ、糖尿病予防のための食事について講演 |
| 和歌山県福祉保健部介護予防体操実践教室 | 通いの場参加者、スタッフ対象に「毎日の食事と栄養」について講演 |
| 和歌山県聴覚障害者情報センター ー令和5年度「みみ企画」研修会 | 生活習慣病予防の食生活について講演 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にす教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>「食事」は生きるための基本である。栄養の知識を習得し、時代と共に変化する食環境において、食生活の管理ができる人材の育成を目的とする。</p> <p>また、学んだ知識や技術力の向上を図り、社会に貢献できる人材育成を目的とする。</p> |

III. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 | 成果 |
|-------|-------|----|
|-------|-------|----|

| | (授業改善の取り組みを含む) | (授業評価の結果とその評価) |
|------------|--|--|
| 臨床栄養学実習 I | 他の授業で学んだ基礎の内容が、臨床栄養学で活かされていない学生が多かったため、復習と確認問題を行い、各学生の課題を明確にすることで個別対応を取り入れながら授業を行った。 | 個別対応を行った共有すべき内容は、全体へフィードバックしたが授業のテーマと外れてしまうこともあり、全員が興味を持てる授業の運営は困難であった。個別対応の必要な学生には、別日を設け支援を行う必要があった。 |
| 給食管理 | 今年度採用したテキスト内容が、栄養士をめざす学生にはボリュームが多かったため、テキストで必要な箇所とスライドを組み合わせることで授業を行った。講義内容が、関連する他の授業を学んだ後の実施で理解が深まると考え、次年度から開講時期を後期に提案した。 | 授業の初めに、テーマと目標を示したが、テキストとスライドのボリュームが多く学生からは重要ポイントを示してほしいの意見があった。学生の理解を深めるためには、テキストの選択とスライドの内容を少なくする必要がある。 |
| 医療事務サービス総論 | 医療秘書実務実習をイメージできるような教材づくりと、テーマを決めグループワークの機会を多くし、学生自らの成果を発表し互いに学べる機会を設けている。 | 講義、ロールプレイ、グループワークを取り入れることで、医療秘書実務実習に向けての心得と医療事務の仕事のイメージを理解するのに役立っている。 |
| 臨床栄養学概論 | 傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメントに必要な用語の理解に、ロールプレイや臨床の場面をイメージできる教材を使用した。 | 疾病概念の理解ができていない学生も多く、疾病概念がイメージできる教材の作成と合わせて授業を行う必要がある。 |
| 医薬と検査 | 臨床栄養学でと関連する疾患、臨床検査等と関連する教材を作成し、講義、確認問題、グループワーク、学生がテーマを決めてパワーポイントを作成、発表することで互いに学べる機会を設けている。 | 症例を提示し、臨床検査、生理検査や疾患と薬の関係が関連付けられる教材により、学生の理解に役立っている。また、疾患別食事療法の知識や栄養ケア・マネジメントの理解にもつながっている。 |
| 臨床栄養学実習 II | 病院給食場面をイメージできる教材を作り、献立の展開、運営についてはグループワークの機会を多くし | 小グループでリーダーをつくり、全てのメンバーが役割を持つことで、各シフトの役割の理解につながった。成果 |

| | | |
|----------|---|---------------------------------------|
| | ループで検討する機会を設けた。 | を互いに発表することで病院給食のイメージがつかめていた。 |
| キャリアデザイン | 栄養士実録認定試験の過去問から問題を作成し、自己採点後に関連する項目について考え方の解説を行っている。 | 過去問を行うことで、栄養士に必要な知識や応用問題の考え方が身につけている。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

学生の進路相談や短期大学、クラスになじめない学生について面談等を行った。
ご父兄と学生の思いを確認し、学生にとって、最良の方法は何かを考えながら学生支援にあたった。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

- ・学生が興味を持って参加できる教材を作る。
- ・関連する教科の教員と連携を持ち、共有できる資料の統一を図る。
- ・見やすくわかりやすいスライドの作成。
- ・グループワークの機会、学生自らの成果を発表する機会を多く設ける。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

- ・自己の知識やスキルの向上のため、学会や臨床で得た情報や経験を地域や学生支援に活かす。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

芝田 史仁

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 芝田 史仁 |
| 役職 | 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 自然と生物 | 保育 | 2 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 自然と生物 | 生文 食物 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 人体の構造と働き | 生文 | 1 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 解剖生理学 | 食物 | 1 年 | 前期 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| キャリアデザイン | 食物 | 2 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 卒業研究 | 食物 | 2 年 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 3 |
| 保育内容演習(自然) | 保育 | 2 年 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 子どもの自然遊び | 保育 | 2 年 | 後期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 無 | | | | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|--------------|-----|
| 教務委員会 | 委員長 |
| FD・教学 IR 委員会 | 委員長 |
| 自己点検・評価委員会 | 委員長 |
| SD 委員会 | 委員 |
| 障がい学生支援委員会 | 委員 |

| | |
|--------------------|----|
| 研究倫理・コンプライアンス推進委員会 | 委員 |
| ハラスメント防止対策委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| | |
|-----------------|-------------|
| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
| 管理栄養士国家試験対策講座講師 | 2023年11月11日 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| | |
|------------|--------------------|
| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
| 和歌山市 | 和歌山市教育委員会社会教育委員 |
| 和歌山市 | 和歌山市教育委員会事務評価委員会委員 |
| 環境省 | 環境省希少野生動植物保存推進員 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | 【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。 |

| | |
|----|---|
| | <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>授業では、だれにでもわかりやすい授業を心がけている。そのため、演習科目では、体験的な内容と講義を組み合わせ、学びの内容を体感的に理解できるようにしている。また、各回の授業で学ぶべき内容を厳選し、覚えることは最低限にしつつ、身近な事例を紹介したり、他の授業科目との関連を示すことで、理解の深化を図っている。さらに、学生自らが考え、課題を解決する力を伸ばすため、期末試験では可能な限り答が複数ある問題を提示するように心がけている。このようにして、自ら課題を見出し、その解決策を考え、解決に向けて主体的に学び続けることができる人材育成を目的として、教育活動を行っている。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------------|---|---|
| 自然と生物(保育1年) | 受講者無く、未開講 | |
| 自然と生物(生食1年) | <p>パワーポイント資料を用いて講義した。提示する情報を厳選し、スライドの文字情報は必要最低限に、フォントを大きく、資料が見やすいように心がけた。また、ウェブ上に公開されている動画資料等を活用し、講義内容の理解に繋げた。さらに、要点を整理するまとめシートを毎回配布し、その内容を期末試験範囲とすることで、学習意欲向上に繋げた。</p> | <p>授業評価では、【授業の計画について】の項目の平均評価が 4.4、【授業の内容】4.0、【教員の教え方】4.3、【授業の成果】4.1 との結果であった。特に、【教員の教え方】では、『教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。』との項目で評価が 4.4 と最も高く、自由記述においても利用した視聴覚教材や配布したプリントに対して好意的なコメントが寄せられており、用意した教材への評価が高いことがわかった。一方、【授業の内容】への評価が比較的</p> |

| | | |
|----------|---|--|
| | | に低く、特に『この授業は興味や関心が持てた。』との質問項目への評価が3.9と最も低い結果となった。学生の興味・関心を高める導入等の工夫が課題である。 |
| 人体の構造と働き | パワーポイント資料を用いて講義した。提示する情報を厳選し、スライドの文字情報は必要最低限に、フォントを大きくして資料を見やすくなるように心がけた。また、登録販売者に必要な専門的内容を身近に感じられるよう、人体の各器官に作用する身近な医薬品について、その配合成分と働きを人体の構造と機能の解説と併せて解説するように心がけた。さらに、要点を整理するまとめシートを毎回配布し、その内容を期末試験範囲とすることで、学習意欲向上に繋がった。 | 授業評価では、【授業の計画について】の項目の平均評価は4.9、【授業の内容】4.3、【教員の教え方】4.5、【授業の成果】4.4との結果であった。概ね高い評価が得られたと考える。内容においては『この授業は興味や関心が持てた。』への評価が4.2、方法では『学生の理解に合わせて授業が進められていた。』への評価が4.2と共に、同一項目の中では比較的評価が低く、今後の課題と考える。 |
| 解剖生理学 | パワーポイント資料を用いて講義した。提示する情報を厳選し、スライドの文字情報は必要最低限に、フォントを大きくして資料が見やすくなるように心がけた。また、栄養士に必要な人体の構造と機能に関する理解を深めるため、高血圧や糖尿病などの生活習慣病との関わりや他の科目との関連性を意識させるように講義を行った。さらに、要点を整理するまとめシートを毎回配布し、その内容を期末試験範囲とすることで、学習意欲向上に繋がった。 | 授業評価では、【授業の計画について】の項目の平均評価は4.6、【授業の内容】3.9、【教員の教え方】4.4、【授業の成果】4.2との結果であった。【授業の計画】及び【教員の教え方】で評価が高く、コメントでもスライドや配布プリントが分かりやすいとの意見が多かった。一方、【授業の内容】への評価が低く、特に『この授業は興味や関心が持てた。』との評価項目には最も低い3.8の評価がついた。学生の興味・関心を高めるよう、身体にまつわる身近な話題を導入に取り入れる等の工夫が必要である。 |
| キャリアデザイン | 栄養士として最低限必要な知識を身 | 栄養士実力認定試験の結果、解剖生 |

| | | |
|----------------|--|---|
| | につけられるよう、1 年次に学んだ人体の構造と機能に関する内容のうち、過去5年間の栄養士実力試験出題範囲に講義内容を厳選し、要点を搾った講義を行った。 | 理学は全国平均の正答率 51.10%、全国短期大学の平均 45.75%に対して、本学学生の平均正解率が55.60%と、両平均を上回る結果となった。重要ポイントをしぼり、解説した結果が評価されたと考える。 |
| 卒業研究 | 研究するうえで必要な態度と手順を身につけられるよう、重要事項をプリントにまとめて配布するなど、わかりやすい指導を心掛けた。また、Google アプリを利用した協働学習をとりいれ、チームで協力して課題解決に取り組めるようにした。 | 指導の結果、学生達は、『暮らしの中の匂いはどこから?』『自然から香りを抽出』『学内の植物と和歌山県の特産品を用いた香りの研究』という3本の卒業論文に研究成果をまとめることができた。身近な植物から香料を抽出し、その活用方法を友人と一緒に探究し、その結果を論文にまとめる過程を経験することで、課題解決力の向上につながったと考える。 |
| 保育内容演習 (自然) | 講義と実践を組み合わせ、子どもと自然環境との関わりや意義と指導のポイントを体感的に理解できるようにした。また、パワーポイントで作成した視聴覚資料は、できるだけ要点を絞り、文字を少なく、フォントを大きくして、見やすく、分かりやすくなるように作成した。さらに、学生が主体的に学習に取り組めるよう、講義では各回の学習すべき課題を記載したまとめプリントを配布した。学生は、講義内容の中から課題に該当する部分を聞き取り、考察し、プリントに回答することで、講義への理解を深められるようにした。 | 授業評価では、【授業の計画について】の項目の平均評価は 4.4 と 4.3、【授業の内容】は 4.4 と 4.2、【教員の教え方】は 4.4 と 4.2、【授業の成果】は 4.5 と 4.1 との結果であった。どの項目についても概ね高い評価が得られたと考える。自由記述でも実際に体験して学んだことに満足しているコメントが多く得られた。 |
| 子どもの自然遊び | 実践と講義を組み合わせ、ネイチャーゲームを用いた自然体験活動のねらいと意義、指導のポイントを体感 | 授業評価では、【授業の計画について】の項目の平均評価は 4.6 と 4.3、【授業の内容】4.5 と 4.1、【教員の教え |

| | | |
|--|--|---|
| | <p>的に理解できるように心掛けた。また、パワーポイントで作成した視聴覚資料は、できるだけ要点を絞り、文字を少なく、フォントを大きくして、見やすく、分かりやすくなるように作成した。さらに、学生が主体的に学習に取り組めるよう、講義では各回の学習すべき課題を記載したまとめプリントを配布した。学生は、講義内容の中から課題に該当する部分を聞き取り、考察し、プリントに回答することで、講義への理解を深められるようにした。</p> | <p>方】4.4 と 4.1、【授業の成果】は 4.6 と 4.1 と、概ね高い評価が得られた。特に、ネイチャーゲームを実際に体験して学ぶ内容には、自由記述においても肯定的なコメントが多く、評価されていると考える。</p> |
|--|--|---|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

管理栄養士国家試験対策講座では、過去の国家試験出題内容を精査し、頻出問題に関連した内容に絞って、要点をまとめて解説した。パワーポイント資料作成においても、情報を厳選し、重要ポイントをまとめて示すなど、わかりやすくなるように工夫した。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

授業内容への学生の興味・関心を高め、主体的な学びを促す授業作りを目標とする。特に、講義系科目では、学習内容と関連する身近なトピックを多く授業内で取り上げ、『わかった!』という達成感が得られる授業展開を心がける。また、学生が、授業内で学習した情報を整理し、内容についての理解を深められるように、授業内での時間配分を見直し、学生が考える時間の確保を図る。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

誰にでもわかりやすく、そして学習者の主体性を重視した教育活動を展開する。学生の質問・相談には学生の意図を十分に聞き取り、学生と共に一緒に考える姿勢で対応する。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果

- 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

西出 允徳

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2023 年 2 月 28 日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 西出允徳 |
| 役職 | 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|---------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 病理学 | 食物 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 食品衛生学 | 食物 | 1 年 | 前期 | 必修 | 2 | 1 | 100 分 |
| 食品学Ⅱ(各論・加工学含) | 食物 | 1 年 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 100 分 |
| 食品学Ⅱ | 生文 | 1 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 食品学各論実験 | 食物 | 2 年 | 後期 | 選択 | 1 | 1 | 150 分 |
| 紀の国の食文化 | 全学 | 2 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 製菓理論 | 食物 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 製菓実習 | 食物 | 1 年 | 前期 | 選択 | 1 | 1 | 150 分 |
| 基礎演習 | 食物 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 100 分 |
| 卒業研究 | 食物 | 2 年 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 150 分 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 無 | | | | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|-----------|-----|
| 学生部 | 委員長 |
| 宗教部 | 委員長 |
| 衛生委員会 | 委員 |
| 障害学生支援委員会 | 委員 |

| | |
|------------|----|
| 災害対策委員会 | 委員 |
| 自己点検・評価委員会 | 委員 |
| SD 委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|------------------|-------------|
| 第 47 回公開講座 講座担当 | 2023 年 2 月 |
| 管理栄養士受験対策講座 講座担当 | 2023 年 12 月 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|---------------|--------------------------|
| 和歌山県教育委員会 | 「御坊祭」文化保存伝承委員 |
| 和歌山県教育委員会 | 和歌山県保育士等キャリアアップ 講師 |
| 和歌山市教育委員会 | 和歌山市中学校給食運営委員 |
| 和歌山市教育委員会 | 和歌山市中学校給食センター整備運営事業者選定委員 |
| 和歌山県立医科大学看護学部 | 非常勤講師 |
| 和歌山県立高等看護学院 | 非常勤講師 |
| 和歌山リハビリ専門職大学 | 非常勤講師 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子とられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目指す。 |

| | |
|-------|--|
| | 的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | キリスト教、多神教を問わず神が必要とされる平和に基づいた自己形成を促し、お互いに助け合って社会貢献が実践できる学生の育成を目指している。 |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|---------------|---------------------------------|---|
| 病理学 | テキスト、パワーポイント | 講師 4 人でのオムニバスであるため学生授業評価アンケートでの結果分析から自己の評価を判断することは難しいが、学生からの希望として配布資料や理解度を高めるための小テスト実施を望む声が多いため、次年度の授業では改善が必要と思われた。 |
| 食品衛生学 | テキスト、パワーポイント、資料配布 授業終了時の小テスト | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結果では、授業終了時に行う小テストについては、学生から理解しやすいという声が多く、引続きこの授業方針で今後も進めることとする。 |
| 食品学Ⅱ(各論・加工学含) | テキスト、パワーポイント、資料配布 授業終了時の小テスト | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結 |

| | | |
|---------|---------------------------------|--|
| | | 果では、授業終了時に行う小テストについては、学生から理解しやすいという声が多く、引続きこの授業方針で今後も進めることとする。反対に学生数が多い教室での授業では後ろまで声が聞こえにくいとの指摘もあるため、加齢に伴う授業の在り方について改善していく必要性を感じた。 |
| 食品学Ⅱ | テキスト、パワーポイント、資料配布 授業終了時の小テスト | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結果では、受講生数が少なく、声が良く聞こえやすかったと自由記述で評価を受けた。教室の環境の違いにより授業状況は大きく変化すると感ぜられた。 |
| 食品学各論実験 | テキスト、パワーポイント、資料配布 期末時のまとめ確認 | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結果では、この授業を通して普段は作ることが出来ない加工食品を原料から作ることができ、その過程がよく理解できたことが良かったとの感想から、食品学各論実験では化学・物理実験だけでなく、食材の加工実習が今後も続けなければならないことが良く理解できた。 |
| 紀の国の食文化 | パワーポイント、資料配布 授業終了時の小テスト | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結果では、この授業で和歌山の郷土食を実際に試食体験できたことが学びの中で大切だと多くの感想が自由記述で確認できている。今後も郷土食の学びでは十分に紹介できていない郷土食についても紹介していき、体験での学びと並行して講義を進めることが重要と認識する。 |

| | | |
|----------|----------------------------|---|
| 製菓理論 | パワーポイント、資料配布 授業終了時の小テスト | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結果では、授業計画と評価の関係は良く、今後も授業内容をさらに充実し、これまでの方針で授業を進めることとする。 |
| 製菓実習 | パワーポイント、資料配布 授業終了時の小テスト | 学生授業評価アンケートの簡易分析、傾向分析、自由記述を参考にした結果では、授業内容と学生評価は良く、今後も授業内容をさらに充実し、これまでの方針で授業を進めることとする。 |
| 基礎演習 | パワーポイント、資料配布、小テスト | 小人制で指導する上において、学生個々の基礎的な問題点を見つけ出し、基礎力をみにつけさせている。 また、授業の中では学生が互いに分からない事について教え合うことも授業の取組にしている。 |
| 卒業研究 | パワーポイント、資料配布 実習、見学遠征 | ここ数年は自治体や企業からの食品開発などの依頼があり、その依頼を郷土食の関心を高めるためとして卒業研究に取上げている。卒研の評価は地方紙2社に取り上げられて評価を受けている。 |
| キャリアデザイン | パワーポイント、資料配布 | 食物栄養専攻教員によるオムニバスであるため学生授業評価アンケートでの結果分析から自己の評価を判断することは難しいが、学生の自由記述を参考にした結果、栄養士実力試験へ向けた取り纏め授業としての評価は得られている。その一方で非常勤講師が担当する社会福祉概論や公衆衛生学の授業についても対策をして欲しいとの声があるため、改善が必要と考える。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

- ・和歌山県教育委員会からの要請である保育士キャリアアップに対し、本県保育士・栄養士・管理栄養士・調理師への「食の重要性」について講演。
- ・和歌山市教育委員会においては、和歌山市中学校給食センター設立に向けて委員となり活動中。
- ・産学である印南町のミニトマトの食品化については、試作品が完成し本年度中に企業へ最終提案予定。
- ・産学官での研究である「山椒エマルジョン」の研究も研究進行中で、次段階へ進行中。
- ・非常勤講師担当の3校については、来期も引き続き依頼の話が出ている。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

来期は、担当する実験実習が全て無くなり座学のみと授業内容が変更されるが、引継担当者に応援が必要な場合には惜しみなく協力する計画である。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

山椒抽出物の減塩効果についての研究(継続)
産学協定 ミニトマトの商品化研究(継続)
「御坊祭」伝承の調査研究(継続)

V. 【根拠資料】

- ・ 23年度 シラバス
- ・ 23年度 授業評価アンケート結果
- ・ 23年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 23年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 23年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

野志 昌弘

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 野志昌弘 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|----------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 生化学Ⅰ | 食物 | 1 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 生化学Ⅱ | 食物 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |
| 食品学Ⅰ | 食物 | 1 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 食品学Ⅲ | 食物 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |
| 栄養学概論 | 食物 | 1 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 100 分 |
| 生理・生化学実験 | 食物 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 3 | 150 分 |
| 食品学総論実験 | 食物 | 1 | 後期 | 選択 | 1 | 3 | 150 分 |
| 卒業研究 | 食物 | 2 | 後期 | 必修 | 2 | 3 | 150 分 |
| キャリアデザイン | 食物 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |
| 基礎演習 | 食物 | 1 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |
| 生活科学 | 食物 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 100 分 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|------------------|--------|
| 入試部 | 委員長・委員 |
| きょう育の和センター | 委員長・委員 |
| 研究倫理・コンプライアンス推進委 | 委員長・委員 |

| | |
|----|--|
| 員会 | |
|----|--|

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------------|----------|
| 管理栄養士国家試験対策講座 | 通年(随時開催) |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】</p> |

| | |
|----|---|
| | 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。 |
| 個人 | 豊かな人生を過ごすために直面する諸々の課題に対して、自身が納得できる解を導き出せるための論理的思考力ならびにその結果を実際のものとして獲得できる実践力を身に付けた知識人の育成を志す。 |

Ⅲ.【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|----------------------------------|---|--|
| 生化学Ⅰ、 生化学Ⅱ、 食品学Ⅰ、 栄養学概論 | 当該科目は、本学では苦手意識を持つ学生の多い学習分野である。また、座学形式の講義において、板書を取りながら教員の説明を理解して聞くことが困難であるという意見が良く得られる。そこで、オンライン上に板書を提示することで上記問題の解決を図った。また、この掲示には原則次回授業までの期限を設けることで、日常かつ継続的な学習習慣の助けとなる事も期待した。他には、定期的に小グループでの調べ学習を授業中課題とすることで、教師より目線の近いであろう他受講生の勉強方法や理解度を知ることのできる機会を設定することで学習姿勢に対する気づきを与えることも行った。 | 授業評価アンケートより、いずれの授業においても資料の提示は概ね好評であった。得られた意見を見るとより実践的(管理栄養士国家試験や栄養士実力認定試験)な内容を求める声もあるが、資料の内容を読み解けない受講生もいるようであった。担当者の考えは、本科目は栄養士資格取得に必須の授業である位置づけから学ぶべき領域の多くをカバーするべきであるとしている。そこで不足に対する補足を授業時間外に再試験対象者のために実施したが、上記後者のような意見を持つ学生は、このような授業時間外学習には参加しない傾向が強く見られた。この解離が大きな問題であり、目標を達成するためには”勉強”の必要がある事から理解させ、学習の楽しみを感じさせることがスタートであると強く感じる。 |
| 生理・生化学実験、 食品学総論実験 | 実験は座学の理解を深める良いツールとなるため、興味がないものには楽しんでもらえる、興味があるものにはより知識欲が深まるように努めることと | グループワークで問題となりがちな作業負担に学生間で偏りが生じる現象は、担当をレポート中に明記化させて提出させることで概ね解消されてい |

| | | |
|----------|--|--|
| | <p>した。実験は基本的にグループで行うが、参加者に自身の分担を明確化させることで実験に対する責任感を持たせた。また、レポート課題に自身で選べる数段階の到達点を設定することで、より学びを深めたい者と理解が困難な者のどちらかに偏った授業レベルとならないように配慮した。ただし、全ての段階の解答を次回授業開始時にフィードバックすることは、最低限の学習内容しか選択しなかった者に対する授業の質の担保のため実施した。</p> | <p>た。また、到達段階別の課題においても最高段階での提出を目指す学生が予想以上に見られたことから、取り組みには学習意欲ならびに調査力向上の効果があつたと思われる。授業評価アンケートからは、習熟段階別に理解できるよう心掛けた説明が概ね好評であることが見て取れた。これはオフィスアワーでの対応以外に放課後居残り学習でレポート課題に取り組む学生にこちらから声をかけたことも影響していると予想できる。授業時間外学習のさらなる充足を目指したい。</p> |
| 卒業研究 | <p>前年度は 10 名程度の学生を 1 組として授業に挑んだが、今年度は学生 9 名を 3 名ずつ 3 組に分けた小グループでの活動とした。この小規模での取り組みにより、研究に対する責任感と自発的学習力の向上を期待した。</p> | <p>普段は表に立って発言・行動することの少ない学生が小規模グループ内では部分的な担当リーダーとなり積極的に活動に取り組む姿が見られた。本授業は、授業評価アンケートを実施していないが、個人的な聞き取りにより、ゼミ生からは自身で考えることの楽しさとその実現の困難さを学べたとの意見が得られた。</p> |
| キャリアデザイン | <p>当該授業は栄養士実力認定試験の対策講座的な内容を含んでいる。そこで、自身が担当する三分野(生化学・食品学・栄養学)の得手不得手を確認するための課題を設定した。これにより得意分野は自信に繋がり、苦手分野はどの程度の取り組みで何点ぐらい成績を上げることができるかを明確化させた。これは、具体的な到達目標の提示による学修意欲の向上を狙ったものである。</p> | <p>2023 年度第 9 回食物栄養専攻会議にて今年度の受講生が受験した栄養士実力認定試験の結果に対するフィードバックの共有がなされた。これによると、今年度受講生の当該担当分野における成績は、全国平均と比較しても三分野全てにおいて優秀であることが数値化された。よって、本取り組みは受講生の学修意欲の向上ならびに栄養士実力認定試験の対策においては有効であると考えられる。</p> |
| 基礎演習 | <p>本科目はリメディアル的な側面が強</p> | <p>到達点を明確に設定することで学習</p> |

| | | |
|------|---|--|
| | い科目であり、ある程度学習進行度別に分類された少人数クラス分け制で行われるものである。今年度は、担当クラス(6名)をさらに学習進行度別に個別対応することで各人の苦手領域の再認識ならびに不足分野の補填学習に注力した。しかし、最終到達点は全学生同等のものを明確に設定し、それぞれが限られた学習時間のなかで目標に到達するためにどう取り組むかという集中力および生涯学習力の養成も行った。 | に苦手意識を持つ受講生でも集中して授業に取り組むことができたようである。また、到達点は短期的および長期的の両点を設定したことも学習意欲の継続に繋がったようである。今年度は、担当クラスの全員が到達目標を達成できた。本科目はクラス分けで行われるため授業評価アンケートは独自に実施したが、周りに知られたくない苦手分野に対する学習を個別に周囲の進行度を気にせず納得するまで取り組める形式は好評であった。 |
| 生活科学 | 本科目はある程度型に当てはめて進行する必要のある資格系科目とは異なる位置づけの選択授業である。また、受講生数が少ない授業である事が予測されたため、少人数で各々が興味のあることについて課題を設定し、それに取り組む演習的な内容を取り入れた。また、受講生各人との対話や教員も交えたグループワーク形式を実行することで参加者の個々の特性を捉え尊重する方針で授業を進行した。 | 受講生の多くが問題解決型の授業形式に取り組んだ経験が少ないようであり、新たな気付きや学びを得たとの回答が授業末の本科目に対するレポート課題より読み取れた。また、少人数のグループワーク形式により、受講生各々が得意領域で実力を発揮できたことに加えて、自分に自信がない学生はグループワークを通じて自身の得意領域を発見し、調査学習が苦手な学生は周囲のチームメイトから手法を学ぶなど苦手を補填する効果も得られたことが同課題より見て取れた。 |
| 食品学Ⅲ | 今年度は未開講であった。 | 今年度は未開講であった。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

今年度の管理栄養士国家試験対策講座では、オンラインツールによる時間を選ばない学習の提供を行った。管理栄養士国家試験の対策には、過去問題に取り組むことが効率的かつ有効な学習方法であると考えられる。そこで、国家試験を受験する予定の受講者の多くは過去問題を十分に取り組んでいるであろうという想定から、講師が独自に作成した疑似過去問題を定期的に小問題ずつオンライン上で提示した。この問題の出題範囲は、受講生に苦手とする分野をアンケート調査した結果より設定した。これにより受講生からは苦手分野の理解に繋がったとの感想を得た。

なお、当資料作成時には今年度の管理栄養士国家試験は実施されていないため本取り組みの合格率への影響は未知である。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

次年度は、受講生の平素からの自発的学習能力の養成に重きを置きたいと考えている。本年度の受講生には、予習および復習を軽視した者が多かったように感じた。そこで、14 回授業の総到達点を早期段階で問題集などの形に落とし込み具体的に提示する。そして、その課題を基とした小テストを定期的に行う。これにより、予習および復習が成績の実点に繋がる事を習慣的に体験させる。また、課題は期末試験前に回収し提出物としても評価すると通知することで、継続的に学習することの重要性を認識させる。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

今年度の管理栄養士国家試験対策講座では、オンラインツールによる時間を選ばない学習の提供を行ったが、この欠点として参加者からの良質なフィードバックを獲得しにくいことが感じられた。そこで次年度は、オンライン形式で講座を行う場合には、講師と参加者間での双方向的なやり取りの回数を増やし、受講生が望む形での学習支援をより実現できるよう努力する予定である。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図
- ・ 2023 年度 第 9 回食物栄養専攻会議 資料(栄養士実力認定試験結果について)

堀江 大輔

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 堀江 大輔 |
| 役職 | 助教 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|-----------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 基礎演習 | 食物 | 1 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 運動生理学 | 食物 | 1 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 子どもの健康と発育 | 食物 | 1 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 食育実践演習 | 食物 | 2 年 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 卒業研究 | 食物 | 2 年 | 後期 | 必修 | 2 | 1 | 3 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担任・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 副担 | 食物栄養専攻 | 2年 | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|----|
| 学生部 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| 該当なし | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| 該当なし | |

Ⅱ. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にす教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | 学生個人が自分の考えをもって行動できる社会人となるよう教育する。 学生が栄養士として活躍できるための素地を育てる。 |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------|-------------------------|----------------------|
| 基礎演習 | 自作プリントを用い、学生の理解が | 授業評価を実施しない科目であるた |

| | | |
|-----------|--|--|
| | 十分でない部分を把握し、個別に説明する対応を行った。 | め省略。 |
| 運動生理学 | スライドによる説明と、3 問程度の課題プリントの実施により各学生の理解度を把握しながら授業を行った。 | 少人数での開講であったこともあり授業評価結果は、平均と比較し良好であった。 |
| 子どもの健康と発育 | スライドによる説明と、3 問程度の課題プリントの実施により各学生の理解度を把握しながら授業を行った。 | 「7. 教員の言葉は、聞き取りやすかった。」の項目で、「そう思わない」と回答する学生がいた。 |
| 食育実践演習 | 受講者がなかったため未実施。 | |
| 卒業研究 | 学生の自主性に基づき研究が進行するよう、話し合いごとに議長となる学生を決め協議した。 | 授業評価を実施しない科目であるため省略。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

| |
|---|
| <p>副担任として、担任のサポートに努めた。</p> <p>助手として担当する授業において、つつがない実験実習のための準備と実習担当者のサポートを行った。</p> |
|---|

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

③ 授業における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| <p>来年度は新規担当科目があるので、他科目の内容等を参考に学生に必要な内容を精選する。</p> <p>また、授業時の言葉遣いについて、学生がはっきり聞き取れるよう言葉遣いに注意する。</p> |
|--|

④ 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| <p>担任・副担任の割り振りは未定であり、決定次第他の担任・副担任と協同し、そのクラス・役割に合わせた学生サポートを実施する。</p> <p>助手として担当する科目は未定であり、決定次第担当者と連携を密にして、準備・サポートを遂行していく。</p> |
|--|

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)

- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

若林 一花

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|--------------|
| 提出日 | 令和6年3月1日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 若林一花 |
| 役職 | 助教 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 調理学実習 I | 食物 | 1 | 前期 | 必修 | 1 | 1 | 3 |
| 調理学実習 II | 食物 | 1 | 後期 | 必修 | 1 | 1 | 3 |
| 給食管理実習 I | 食物 | 1 | 後期 | 必修 | 1 | 1 | 3 |
| 給食管理実習 II | 食物 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 1 | 3 |
| 給食管理実習 III | 食物 | 2 | 集中 | 選択 | 1 | | |
| 基礎演習 | 食物 | 1 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| フードコーディネイト | 食物 | 2 | 通年 | 選択 | 2 | 1 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 担任 | 食物 | 2 | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|----------|----|
| 学生部 | 委員 |
| 進路・就職委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------------|-----------|
| 管理栄養士国家試験対策講座 | 2023年9月9日 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| | |
|---------------------|-----------------------------------|
| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
| 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局 主催 | 令和 5 年度保育士等キャリアアップ研修 (食育分野の一部を担当) |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適應する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>学生ひとり一人を大切に教育し、専門的な実践能力を身につけた上で、自ら考え行動できる学生を育成すること。</p> |

III. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|------------|--|---|
| 調理学実習 I | 献立の食材の下処理や扱い方等の予習および復習課題を実施。また、調理技術の向上のため家庭での調理課題を実施した。 | 授業の内容について、全体の平均ポイントより高かった。調理技術が向上したとの回答が多くみられた。 |
| 調理学実習 II | 調理学実習 I (前期)から継続して、家庭での調理課題および定期的に食材の扱い方等の知識の復習課題を実施した。 | 調理学実習 I と同様に、調理技術についての回答が多くみられた。来年度も継続して家庭での調理課題を実施し、技術の向上のため授業の構成を見直す。 |
| 給食管理実習 I | 大量調理の実践実習の経験を積み重ねるため、グループ別に複数回実施した。また、献立作成を行い、家庭での試作課題も実施。 | 質問事項全て平均ポイントを上回っていた。大量調理を経験したことについて実践的な技術を身につけたなどの回答が多かった。来年度の授業計画について、より実践的な実習にするため、大量調理の経験回数の増加、また受講人数に合わせた授業計画の検討が必要である。 |
| 給食管理実習 II | 学内給食の大量調理(100食)を実施するため、班別に計画から実施、評価に至るまでを学生主体で考案し、実践実習を実施した。 | ほとんどの質問事項について平均ポイントを上回っていたが、授業終了時間についての評価が若干低かった。授業の内容の進行について見直す必要がある。 |
| フードコーディネート | 個人別に考案したメニューについて発表するための媒体を作成し、その評価を実施した。 | 質問事項全て平均ポイントを上回っていた。発表時に他の学生の評価をすることで、自らの内容を見直すことができた。との回答があった。 |
| 基礎演習 | 少人数にグループ分けされているため、担当した学生の理解度に合わせた資料作りと個人指導を実施。 | 授業評価実施なし |
| 卒業研究 | 授業回ごとに議長、書記の担当を決め、意見を出し合える環境づくりに努 | 授業評価実施なし |

| | | |
|---------------|-----------|----------|
| | めた。 | |
| 給食管理実習 III | 学外実習のため省略 | 授業評価実施なし |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

クラス担任としての学園祭、体育祭などの催し物についての指導
就職活動についての相談やアドバイス

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

調理学実習、給食管理実習の授業に関して、基本的な調理技術を身につけ、大量調理に応じた実践力の向上にむけ、給食管理実習室内をより現場の動線にそった使用の整備を行うと同時に、実践実習の回数を増やすことで、栄養士として専門的な実践能力をもてるよう実習の質を高めた

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

クラス運営では担当教員と連携をはかり、学生ひとり一人に目を配りながら、その学生に合ったアドバイスや指導を心がけ、充実した学生生活を送られるように支援する。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

藪下 春菜

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 生活文化学科食物栄養専攻 |
| 氏名 | 藪下春菜 |
| 役職 | 助手 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 該当なし | | | | | | | |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 副 | 食 | 1 | |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|----|
| 宗教部 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| 該当なし | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| 該当なし | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|-------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の |
|-------|---|

| | |
|--------|--|
| | 名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にす教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | 実際の現場で必要とされるスキルを有する栄養士の育成を目的とする。 |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------|-------------------------|----------------------|
| 該当なし | | |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

| |
|---|
| 副担任として、担任のサポートに努めた。 助手として、担当する実験実習のための準備と実習担当者のサポートを行った。 |
|---|

Ⅳ. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

該当なし

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

栄養士・管理栄養士としての実務経験を活かし、学生により多くのことを学んでもらえるようサポートに努める。

Ⅴ. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

2) 保育科

井澤 正憲

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 井澤正憲 |
| 役職 | 教員 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 表現の指導法 | 保育 | 1 | 通年 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 造形表現 | 保育 | 2 | 後期 | | 1 | 1 | 2 |
| 子どもの表現あそび | 保育 | 2 | 前期 | | 1 | 2 | 4 |
| 保育内容演習(造形) | 保育 | 2 | 前期 | | 1 | 2 | 4 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 担 | 保 | 1 | A |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|-----|
| 入試 | 委員 |
| 教職課程委員会 | 委員長 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にす教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | 豊かな感性 想像力豊かな思考力 |

III. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| | | |
|--------|-------------------------|----------------------|
| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
| 表現の指導法 | 発達と表現について | 平面と立体の基礎が身につく |

| | | |
|----------------|------------------|--------------------------|
| | 描画と造形 | |
| 造形表現 | グループワーク 造形環境 | 環境を利用した造形活動と展示学が 興味深い |
| 子どもの表現あ そび | グループワーク 演劇 | 音図身体の総合表現 |
| 保育内容演習 (造形) | 子どもの表現について 立体 | 造形あそびがおもしろい |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

主にワークショップ形式
結果ではなく工程を楽しむ工夫

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

思考する時間配分の改善

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

| |
|--|
| |
|--|

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

今西 香寿

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|----------------|
| 提出日 | 2024 年 3 月 1 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 今西 香寿 |
| 役職 | 准教授・保育科 主任 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|----------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 健康の指導法 | 保育 | 1 | 後期 | 必修 | 1 | 2 | 4 |
| 幼児体育 I | 保育 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 子どもの表現遊び | 保育 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 幼児体育 II | 保育 | 2 | 後期 | 選択 | 1 | 1 | 2 |
| 身体表現 | 保育 | 2 | 後期 | 選択 | 1 | 1 | 2 |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | 保育 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 卒業研究 | 保育 | 2 | 通年 | 必修 | 2 | 2 | 4 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------------|--------|
| 学生部委員会 | 委員長・委員 |
| 衛生委員会 | 委員長・委員 |
| 進路・就職委員会 | 委員長・委員 |
| SD 委員会 | 委員長・委員 |
| ハラスメント防止対策委員会 | 委員長・委員 |
| 自己点検・評価委員会 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|----------------------------|
| 阪南市立まい幼稚園 | 園児の運動あそび指導・教員への運動あそびの指導方法 |
| 阪南市立石田保育所 | 子どもの運動あそび指導・保育者への運動あそびの指導法 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |

| | |
|----|---|
| 個人 | 信愛教育の理念「一人ひとりを大切にする教育」を念頭に置きながら、学生と関わっている。将来、社会人として、また、保育者として、保育の知識や技術を身につけ、地域と社会に貢献できる人事育成を目指している。 |
|----|---|

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------|---|---|
| 健康の指導法 | 教科書と照らし合わせながら、穴埋めのプリントを作成し、記述しながら実践例を加えながら進めた。昨年度と科目は違うが、同じような取り組みをしている。今年度は、前回の復習として、授業開始時に小テストではないが、問題を作成し、振り返りとして、解くようにした。 | 授業評価の結果項目で、「学生の理解に合わせて授業が進められていた」質問に対し、相関分析グラフの結果、読み取れることは、受講する学生間の理解度にばらつきがみられたことである。授業の理解度をより深めることができるよう工夫を試みたい。プリントを配布し、穴埋めを埋めていく方法はいいとの意見があった。パワーポイントを用いて、学生に配布したプリントと同じ内容を作成し、穴埋めのところを示していく方法を取った。全員が見やすいように、プリントの穴埋めの部分をズームにして示したが、自由記述の欄に「ズームにすると余計に見づらい」との意見があった。反対に、見やすかったという意見もあったが、今後は学生にとって、大きくして方が見やすいのではないかという概念を捨て、学生自身にズームは必要か必要でないかなど、問いかけながら取り組んでいこうと考える。 |
| 幼児体育 I | 幼児を対象とした運動あそびを実践しながら取り組んだ。毎回、授業終了した翌日に振り返りとして授業内容をノートに書き、提出をさせている。この | 2クラスあり、同じ授業内容で行ったが、評価が分かれた。1クラスの授業評価アンケートの結果は、全質問に対し、「とてもそう思う」が最も多く、1クラ |

| | | |
|-----------------|---|---|
| | <p>ノートが今後就職をした際に参考資料になると考える。よりこのノートが充実したものになるよう、今年度は遊びのねらいや運動遊びから出現する動きの記載を含めて記入することとした。学生のノートを添削し、学生がとらえ違いをしているところやノートに書かれていてよかった点などを授業開始時に話をするように取り組んだ。</p> | <p>スは、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」に分散された結果となった。しかし、評価が分散されたクラスの学生は、自由記述のコメントが多く書かれており、「今後活かされる」「ノート作成が大変であったが、とてもためになるノートになった」など、高評価の意見が書かれていた。今回の評価から、今後も引き続き、実践を通してながら、保育現場でも活用できるような取り組みをしていきたいと考える。</p> |
| <p>子どもの表現遊び</p> | <p>劇を通して、身体表現・音楽表現・造形表現を高める内容である。グループに分かれて、各グループで題材を決め、題材から子どもたちに「なにを伝えたいのか」テーマを決め、シナリオを作成した。シナリオを基に、身体表現・音楽表現・造形表現の分野別に練習に取り組み、舞台発表を行った。</p> | <p>幼児体育Ⅰと同様、2クラスあり、同じ授業内容で行ったが、評価が分かれた。1クラスの授業評価アンケートの結果は、全質問に対し、「とてもそう思う」が最も多く、1クラスは、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」に分散された結果となった。どちらのクラスにおいても、準備の大変さ、時間の段取りの仕方など、今後、保育現場で就職をした際に、この経験は活かされるのではないかと考える。</p> <p>自由記述に書かれていたが、グループ内であっても、熱心に取り組む学生や表現が苦手な学生もおり、そのため取り組み方に差が出てしまった。全員が興味を持てるような取り組み方法を考える必要がある。</p> |
| <p>幼児体育Ⅱ</p> | <p>幼児体育Ⅰでは、日頃の保育で行われそうな運動あそびを中心に取り組んだが、幼児体育Ⅱでは、ダンスの構成や組遊びなど行事で行われそうな活動を中心に実践形式で取り組んだ。</p> | <p>全ての質問項目において、「強くそう思う」「そう思う」の結果であった。受講人数も少ないこともあり、その中で行われたので、できない内容もあったが、人数が少ない分だけ、学生と関わることもできたと思う。自由記述にも「勉強</p> |

| | | |
|----------------|--|--|
| | | <p>になった」「楽しかった」など、記述にされていた。また、実際に子どもと触れ合って運動遊びの指導をする経験の機会を設けた。受講人数が少ないから取り組むことができた。実際に子どもと関わることで、学生対象に模擬保育を行うより、より子どもの反応や対応が分かりやすいとの意見もあり、少しでも多く子どもと関わる機会を増やしていき、学んだことを実際に取り組むことができる環境を作ることができればと考える。</p> |
| 身体表現 | 受講者なし | |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | <p>オムニバスの中の一人として、担当をした。授業の担当は、運動あそびと運動あそびの模擬保育の指導を行った。</p> | <p>授業評価アンケートには、14回分の授業についての評価のため、担当した評価については分からないが、自由記述において、模擬保育を行ったことで、「今後活かしていく」や「模擬保育での意見が参考になった」などの記述があった。今後の課題としては、音楽・図工・運動あそび・ゲームに分かれて行われているので、それぞれでどのような模擬保育が行われていたのかなど、全体の総評を取り入れていく必要があると考える。</p> |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

2年生の担任ということもあり、進路相談を行った。学生の履歴書指導、面接指導、内定のお礼状など、就職試験に関わる内容はすべて対応した。学生たちはそれぞれ悩みながらも、自分の進路を明確にすることができた。また、学生委員会に所属しており、体育祭・学園祭等、学校行事の運営に携わった。学生主体で進めていきたいが、初めて実行委員として活動するということもあり、様々なアドバイスをしながら行事を終えることができた。学生たちは、体育祭・学園祭の企画・立案・実施と授業に両立しながら取り組むことは大変だったと思うが、この経験は社会に出た時に必ず役に立つと考える。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

学生たちに確認をしながら取り組んでいこうと考える。こちらが良かれと思ってしていても、学生にとっては、必要でないことがある。学生からこうしてほしいと伝えてくれたらいいが、なかなか難しいようである。発言できないような環境を作ってしまったのかもしれない。学ぶことは楽しい環境であってほしいので、気にかかることはこちらから尋ね、お互いによりより授業になるよう取り組んでいきたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

学生が授業に取り組む様子や日常の様子をよく観察し、学生の様子に変わった点などがみられたら、担任・副担任に報告し、学生一人ひとりを授業の学び以外においてもサポートしていきたいと考える。また、コロナ禍からサークル活動やクラブ活動などがあまり行われていなかったが、学生が授業以外でも学生生活が充実できる場所を提供できればと思う。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

岡崎 満希子

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 29 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 岡崎満希子 |
| 役職 | 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|-------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 保育の心理学 I | 保育 | 1 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 200 分 |
| 保育の心理学 II | 保育 | 1 | 後期 | 必修 | 1 | 2 | 200 分 |
| 障害児保育 | 保育 | 2 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 200 分 |
| 特別支援教育 | 保育 | 2 | 後期 | 必修 | 1 | 2 | 200 分 |
| 子ども家庭支援の心理学 | 保育 | 2 | 後期 | 必修 | 2 | 2 | 200 分 |
| 卒業研究 | 保育 | 2 | 通年 | 必修 | 2 | 1 | 100 分 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 副担 | 保育科 | 1 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|------------------|----|
| 教務委員会 | 委員 |
| 学務委員会 | 委員 |
| こころとからだのサポートセンター | 委員 |
| 教職課程委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|---------------|-------|
| 桃山学院大学 | 非常勤講師 |
| 大阪府立大阪南視覚支援学校 | 外部講師 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>建学の精神に則り、質の高い保育・教育を提供できる保育者(教育者)を養成することを目的とする。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------------|---|---|
| 保育の心理学 Ⅰ | 取り扱う内容が多岐にわたる講義であるため、一方的な講義にならないよう、調査学習、ICT を活用した双方向型授業などを取り入れ、学生が主体的に学べるよう工夫する。 | 授業に「興味や関心がもてた」とする回答が 4.6 ポイントを上回り、「授業に意欲的に取り組んだ」学生が少なかった(約 4.5 ポイント)。 工夫が一定の成果を上げたものと考ええる。さらに良い授業を目指して取り組みたい。 |
| 保育の心理学 Ⅱ | 調査学習、ICT を活用した双方向型授業などを取り入れ、学生が主体的に学べるよう工夫する。 | 授業に「興味や関心がもてた」とする回答が 4.3 ポイントと、全評価の中でやや低かった。 授業中の学生の様子、理解度などをその都度確認しながら、講義を進めるようにする。 |
| 障害児保育 | 小グループによる調査学習、および視聴覚教材等を通じた学習により、学生が自ずと授業内容に興味関心を広げることができるようにする。 | 「授業の内容」および「教員の教え方」について、2 つのクラスの内、一方で 4.5～4.7 ポイントであったが、もう一方は、4.0～4.3 ポイントと、低かった。後者のクラスのコメントには「眠かった」との意見もあったことから、同じ内容の授業であっても、各クラスの学生の状況を見ながら、臨機応変に授業を展開する必要がある。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を使いながら実際の教育現場を想定して学習する。 ・個別指導を通して、学生が自身の課題に気づき、主体的に学べるようにする。 | 「授業の内容」「教員の教え方」について、2 つのクラスの内、一方で約 4.2 ポイントと、全評価の中でやや低かった。このクラスでは、講義に対する良いコメントが少なからずあったが、「難しかった」との意見も複数あった。 次年度は、個々の学生の理解度に合わせ、丁寧に指導する。 |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| <p>子ども家庭支援 の心理学</p> | <p>グループディスカッション等を通じた課題解決型の学習により、保育者として様々な課題に向き合い、考える力を養う。</p> | <p>「授業の内容」「教員の教え方」「授業の成果」について、いずれも 4.2～4.5 ポイントで、学内の平均的な評価に留まった。 グループによる学習活動は、教員によるコーディネートが鍵を握ることから、学生の学習状況をみながら、授業展開をより工夫していく必要がある。</p> |
|-------------------------|---|--|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

・発達障害児者に出会ったことのない 2 年生(有志)を対象に、近隣の施設(児童発達支援センター第二こじか園)の協力のもと、在籍児との交流活動を行なった。(11 月～12 月)
活動の事前事後アンケートからは、様々な学びが得られた様子が窺われた。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

・すべての学生に分かりやすい授業を目指し、講義の展開、講義資料等を見直す。
・学生の理解度を、その都度確認しながら授業を進める。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

・地域における様々な課題を理解し、地域の発展と、そこにおける子どもの健やかな発達につながるような、教育研究活動に従事する。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

小笠原 眞弓

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 28 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 小笠原眞弓 |
| 役職 | 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|----------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 保育のこころ | 保育 | 1 年 | 前期 | 必修 | 1 | 1 | 2 |
| 基礎ゼミ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | 1 | 2 |
| 保育原理 I | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 2 | 2 | 4 |
| 乳児保育 I | 〃 | 〃 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 4 |
| 教育実習指導 I | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | 1 | 2 |
| 教育実習指導 II | 〃 | 2 年 | 前期 | 〃 | 1 | 2 | 4 |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | 〃 | 〃 | 後期 | 〃 | 2 | 1 | 2 |
| 卒業研究 | 〃 | 〃 | 通年 | 必修 | 2 | 1 | 2 |
| 教育実習 | 〃 | 1・2 | 集中 | 選択 | 4 | | |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 宗教部 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------------------|---------------------------|
| 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局子ども未来課 | 保育士等キャリアアップ研修講師 |
| 和歌山市福祉局こども未来部子育て支援課 | 和歌山市子ども・子育て会議副委員長 |
| 海南市くらし部子育て推進課 | 海南市子ども・子育て会議委員長 |
| 和歌山市福祉局社会福祉部高齢者・地域福祉課 | 和歌山市民生委員推薦会委員長 |
| 和歌山県青少年育成協会 | 家庭の日啓発促進事業「家族そろって新入生」編集委員 |

Ⅱ. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|---|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】</p> <p>建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】</p> <p>建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>建学の精神および信愛教育理念、保育科の目標をふまえた上で、2年間の保育者養成に携わっていることに常に責任を感じている。</p> <p>学生夫々の個性を尊重しながら一人一人の課題に寄り添い、保育者に必要な真の愛情や謙虚さ、そして、向上心を持って努力し続ける人材育成をモットーに、あらゆる場面で指導やサポートすることを心がけている。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------|---|--|
| 保育のころ | 今年度の試みとして、3回の現場体験中、初回終了後に学内に於いてグループディスカッションと発表を実施し、後半の学びに繋げた。 | 授業評価は各項目において、4.3~4.8の評価であった。初回一度の体験学習でも学生は多くの学びを得たことが発表の内容から理解できた。また、これを機会に仲間との交流も深まり、後半の体験に良い影響を及ぼしたと考える。 |
| 基礎ゼミ | 教科目「保育のころ」に関連して、子どもや保育の現場を理解するための教科である。現場体験事前学習として、外部講師による「絵本の読み聞かせ」の授業を計画し、現場で役立つ保育技術の向上を図った。 | 授業評価は各項目において、4.4~4.8の評価であった。「保育のころ」と同様に、複数の教員で担当しているため、教員間の連携をさらに深めながら授業内容の改善を図る。 |
| 保育原理 I | 昨年度に引き続き「保育の歴史と思想について」の授業では、子どもを中心とする保育を導いた思想家について、グループワークと発表を行った。各グループから出された資料はレジюмеにして配付、発表の場を設けた。本教科は「原理」の授業であるが、学 | 授業評価は各項目において、4.2~4.7の評価であり、クラスにより差異が見られた。個別のコメント欄に板書の字が読みづらい、もう少しゆっくり話してほしいとの要望があり、後期担当の授業より改善を図った。 また、両クラス合わせて5名の再履修 |

| | | |
|-----------|--|--|
| | 生が少しでも興味を持ち、「わかる」授業となるように、教員の体験談や事例を交えながら授業を進めた。また、雰囲気づくりにも配慮し、授業に集中できる環境を整えた。 | 者がでたことを重く受けとめ、授業の方法、教え方について改めて見直したい。 |
| 乳児保育 I | 講義科目であるが、「乳児の遊びと保育者の関わり」の授業の中で、学生の主体的な取り組みとして、乳児を対象とした手づくり玩具の考案、制作を実施した。 | 授業評価は各項目において、4.1~4.8 の評価であり、クラス間で大差が見られ、成績にも同様の傾向が表れた。クラスの状況に合わせて授業展開したつもりだが、一層の配慮が必要と考える。 |
| 教育実習指導 I | 記録の書き方について補習授業を実施。自由参加であったが、受講した学生からは書き方について理解度が増し、実習では役立ったとの報告を受けた。また、事前指導の一環として以前より行っている上級生との「実習交流会」を今年度も実施した。 | 実習評価は各項目において、4.4~4.7 の評価であった。1 年次の実習課題の一つは充実した記録が書けるようになることであり、学生が最も苦勞する部分である。今後も、さらに資料や指導に工夫を凝らし導いていく。また、好評であった事前の補習授業は次年度も継続していきたい。 |
| 教育実習指導 II | 6 月の教育実習を見据え、1 年春期休暇中から責任実習の指導案(細案)を課題として作成。それを基に模擬保育を実践し実習に挑んだ。また、実習終了後は、振り返りと自己評価を行い、個別に実習成果を発表し、学びを共有した。 | 授業評価は各項目において 4.4~4.9 の評価であり、クラス間で差異が見られた。事前指導に模擬保育をとりいれてから十余年になるが、有意義な時間であると捉え今後も継続していく。また、実習終了後の個人発表では実習を通して成長したことが確認できた。ただ、幼免取得希望者 64 名のうち 1 名が実習不合格となり免許を得ることができなかった。個人的な理由はあるものの、実習に直結する本教科の担当者として、この結果を真摯に受け止めたい。 |
| 保育・教職実践 | 今年度、担当教員を 1 名増員し授業 | 授業評価は各項目において 4.4~4.7 |

| | | |
|----------------|--|---|
| <p>演習(幼稚園)</p> | <p>に取り組んだ。 本教科は、免許・資格を取得する者が、養成課程の最終年限の後期で受講する集大成の授業であることを学生に理解させ、学生自身も自覚を持って授業に参加した。 また、後半の授業において、ドキュメンタリー映画「こどもかいぎ」を鑑賞する機会を設け、子ども理解を深めながら対話の重要性と保育者の役割を認識した。</p> | <p>の評価であった。学生のコメントから、授業の計画と内容は本教科の目的を果たしたことが確認できた。次年度も教員間で連携を取り、情報共有しながらきめ細やかな指導を進めていきたい。</p> |
|----------------|--|---|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

保育科2年の副担任として、担任間で連携を取りながら、夫々の学生の希望や適性に相応しい就職支援を行った。

また、実習担当者として、課題のある学生やその保護者に対して個別面談を行い、理解や協力を得た。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

学生からのコメントを課題として、改善に向けて取り組む。そして、「わかりやすい授業」を目標に学生の理解度に合わせた丁寧な対応を心がけ、学生自身が学びの実感を得られるような授業を展開したい。また、学力に余裕がある学生に対しても、更なる向上が図れるような方策を講じていきたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

学生一人一人としっかり向き合い、個性や適性を見極めながら実習指導や就職支援を行っていく。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023年度 シラバス
- ・ 2023年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)

- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

小滝 正孝

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-------------|
| 提出日 | 2024. 2. 29 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 小滝 正孝 |
| 役職 | 教授 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 基礎演習 | 保育 | 1 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 100 |
| 基礎演習 | 生文 | 1 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 100 |
| 教育原理 | 保育 | 1 | 前期 | 選択 | 2 | 4 | 200 |
| 子どもと言葉 | 保育 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 4 | 200 |
| プロジェクト実践演習 | 全学 | 1・2 | 通年 | 選択 | 2 | 集中 | 集中 |
| 卒業研究 | 保育 | 2 | 通年 | 必修 | 2 | 2 | 100 |
| 国語表現 | 保育 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 100 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|----|-----|
| 有 | 担 | 保 | 1 | B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|------------|-------|
| 教務 | 委員 |
| 図書館 | 館長 |
| きょう育の和センター | センター長 |
| 自己点検・評価委員会 | 委員 |
| SD 委員会 | 委員 |
| 教職課程委員会 | 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|-------------------|----------|
| 大谷大学 | 教育実習事前指導 |
| 和歌山県公立幼稚園 PTA 連合会 | 指導者研修会講演 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |

| | |
|----|--|
| 個人 | 建学の精神に則り、自分も他人も大切に作る心、人間性を高めることを基盤とする。保育者・社会人として、「子どもたちのやる気を引き出し、可能性を伸ばす人の育成」を目指す。 |
|----|--|

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------------------|--|---|
| 基礎演習(保育科) | 情報処理演習室も利用し、Google クラウドルームを活用して課題を提示し、ドキュメントでの提出とした。各学生の振り返りに個別にコメントしフィードバックを行った。また、動画を活用し、理解を深めることに役立てた。「木のおうち」を活用したり、校外学習での体験をもとに文章を作成させたりと、保育を学ぶ上での基礎的な内容の理解を深めさせた。 | 授業評価は、各項目について4.5から4.7 の評価であった。保育の場で使う言葉や書き方を修得できたという感想があった。次年度も、保育に関係する内容を取り入れるとともに、大学として基礎演習で必修として学ばせる内容を充実させたい。 |
| 基礎演習(生活文化学科生活文化専攻) | 情報処理演習室も利用し、Google クラウドルームを活用して課題を提示し、ドキュメントでの提出とした。「木のおうち」を活用し、実際に子供や親と交流した後、保育士にインタビューさせ、募集チラシを作成させた。情報収集を行ったうえで、効果的な情報発信を行う学修となった。分類法やSWOT 分析を取り入れ、話し合いの技法を指導した。動画、スライド資料により、効率的に課題に取り組ませた。 | 授業評価は、各項目について4.0から4.5 の評価であった。グループワークがあり、理解が深まったメールや敬語などビジネスマナーが学べた等の感想があった。次年度は、論理的な文章の書き方にもう少し重点をおく内容としたい。 |
| 教育原理 | 教育の思想については、理念や思想が実践にどのように生かされているか、具体例を示して理解を深めさせた。子どもの権利尊重・主体性の育 | 授業評価は、各項目について3.5から4.5 の評価であった。内容が難しすぎた、資料が準備されているが、スライドの字が小さく読みづらかった等の感想 |

| | | |
|----------------|---|--|
| | 成については、グループワークで子どもの権利条約作成のシミュレーションを体験することで、その理念への理解を深めさせた。、明治から現代までの社会や子どもの動画を視聴することによって、教育の変遷を理解させた。 | があった。次年度は、資料の提示に工夫すること、内容について、より焦点を絞って、重要な思想や制度の理解を深めさせたい。 |
| 子どもと言葉 | ドキュメント映画「こどもかいぎ」を鑑賞し、保育者として子供の言葉の看法取り方や援助の方法について理解を深めさせた。「絵本・紙芝居読書シート」を用意し、毎回、読んだ絵本等の内容をシートに記入し提出させるとともに、毎時間、学生に絵本の読み聞かせを実演させた、多くの児童文化財を知る機会とした。言葉遊びやペープサート劇にグループで取り組むことにより、保育者として指導に生かせる力を培った。 | 授業評価は、各項目について4.2から4.9 の評価であった。絵本や紙芝居に関する知識が増えてよかった、言葉遊びやペープサートで実践力が身についたという感想があった。次年度も、実践的な内容を取り入れるとともに、子供の言葉の発達について、より詳しい内容を学ばせたい。 |
| プロジェクト実践 演習 | 紀の川市、和歌山電鐵、本学とで産学官連携し授業を行った。貴志川線活性化をテーマに、フィールドワークで沿線の実情を把握させた。KJ 法などを用いて課題と対策を整理し、アイデア出しを行った。「お菓子な駅弁」創作というアイデアを実現するため、プロのパティシエに協力を仰ぎ、実現に向けて試作品を作ってもらったこととした。 | 学生は意欲的に取り組み、斬新なアイデアを形にすることができた。自分たちのアイデアが形になることで達成感も増したようである。来年度、紀の川市がクラウドファンディングを募り、和歌山電鐵が商品化を目指すこととなっている。来年度も、紀の川市と連携し、粉河地区の活性化に取り組む計画である。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

人間関係がうまく取れない学生や学修や進路に悩む学生に対して、状況に応じて個別に相談活動を行った。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

インプット・熟考・アウトプットを教育活動の基本とする。学生の「インプット」としては、全体から詳細に且つ論理的に、を意識し、知識技能を伝達していきたい。また、参加体験型を取り入れ、実感を伴う知識技能の修得を目指したい。「熟考」については、伝達あるいは体験した内容を省察する時間を多く設け言語化させることとしたい。「アウトプット」については、熟考した内容を授業で他者に伝えることによって、自らの問題意識をより深めさせたい。また、他者の考察を共有することで、多角的・多面的な思考を深めさせたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

人間関係がうまく構築できない学生に対して、授業や学内での生活の様子をよく観察し、定期的な相談活動をより丁寧に行いたい。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

木村 正徳

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------|
| 提出日 | 令和6年2月29日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 木村正徳 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|-----------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| ボラティア論 | 保育 | 1 | 集中 | 必修 | 1 | | |
| 心理学入門 | 保育 | 2 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 心理学入門 | 食物 | 2 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 幼児理解と教育相談 | 保育 | 2 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 子育て支援 | 保育 | 2 | 後期 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 卒業研究 | 保育 | 2 | 前後 | 必修 | 2 | 2 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 学生委員会 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|--------------------|---------|
| 有田市立田鶴小学校学校運営協議会委員 | 令和5年度 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

| | |
|-----------------------|--|
| 和歌山リハビリテーション専門職 大学 | 心理学(前期) |
| 相愛大学 | 教育学校心理学(前期)・障害者障害児心理学(前期) 心理学基礎演習(後期) |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にす教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>子どもの心身の発達の上で大変重要な乳幼児期に関わる専門保育者として、子どもと保護者の理解のみならず、自己理解と自己の精神安定をはかりながら子どもと喜びを持って関わる専門保育者を育成する。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-----------|---|---|
| ボランティア論 | ボランティア先の周知及び募集と希望者の事前指導及びレポート提出 | ボランティア先や日が多岐にわたり、十分な事前指導の時間が取れなかった。ボランティア先での学生の行動は評価するに十分であった。 |
| 心理学入門 | 一般心理学の分野で、知識として知っておくと良い内容に絞って講義を行った。ユーチューブなどを使い、学生の理解をはかった。また、自己理解として、簡単な心理テストを行った。 | 心理テスト等では、自分のテスト結果に対して、興味を示していた。一般心理学においても極力テキストの図やユーチューブなどの映像を使いながら学生の理解を促した。 |
| 幼児理解と教育相談 | 幼児理解をする上で必要な知識の学習と教育相談の基本となる「聴く」ことについて演習を行った。 | 「聴き方」訓練では、興味を持って取り組んでいた。知識の学習では、若干理解できずにいる学生がいたように思われる。幼児理解について、より分かりやすく説明する工夫が今後の課題である。 |
| 子育て支援 | 保護者支援のポイント及び園内や他機関との連携について、具体例を挙げながら分かりやすい理解をはかった。 | 他の教科で学んだことと重なる部分もあり、それをもとに具体的に理解を深めようと講義をすすめたが、思うように深められたか若干疑問が残る。もう少し、学生が興味を持つような具体的事例(架空事例を含む)をもとに講義内容を検討する必要がある。 |
| 卒業研究 | 化粧意識について調査し、それをもとに研究論文としてまとめた。 | アンケート調査の項目と集計については、学生が主体的に取り組めよく頑張っていた。調査結果のまとめについては、学生がまとめた内容をもとに指導者がまとめ直す必要があった。 結果的に良い研究論文になったと思う |

| | | |
|--|--|-------------------------------------|
| | | が、内容的に学生の力量を超えていたのかもしれないと思うところもあった。 |
|--|--|-------------------------------------|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

進路決定の時期でもあり、自分の納得のいく進路選択をすることと、青年期の課題への対応に対して少しでも支援が出来るように日頃からコミュニケーションを心がけた。一年で目でもあり、私自身学生との距離感をつかむまで時間がかかったように思う。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

座学の教科が多いので、講義内容に興味を持たせるための工夫が必要ある。ユーチューブやDVDなどの映像やICT機器を使った講義内容の視覚化や、具体的事例を使ったり、話し合い活動を積極的に行わせるなど、学生に興味を持たせるための授業改善の工夫をしなければならないと考える。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

今年度同様、自分の納得のいく進路選択をすることと、青年期の課題への対応に対して少しでも支援が出来るように日頃からコミュニケーションを心がけていきたい。

V. 【根拠資料】

- ・ 令和5年度 シラバス
- ・ 令和5年度 授業評価アンケート結果
- ・ 令和5年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 令和5年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 令和5年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

桑原 徹也

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 29 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 桑原徹也 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|-------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 地域子育て子育て支援論 | 保 | 2 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 子ども家庭支援論 | 保 | 2 | 前期 | 選択 | 2 | 2 | 4 |
| 保育実習指導Ⅲ | 保 | 2 | 通年 | 選択 | 2 | 2 | 2 |
| 社会的養護 I | 保 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 4 |
| 子ども家庭福祉 | 保 | 1 | 前期 | 必修 | 2 | 2 | 4 |
| 社会福祉 | 保 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 2 | 4 |
| 保育実習指導 I A | 保 | 1 | 後期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 子育て・子育て支援論 | 生食 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 保育実習指導 I B | 保 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 保育実習Ⅲ | 保 | 2 | 集中 | 選択 | 2 | | |
| 保育実習 I | 保 | 1 | 集中 | 選択 | 4 | | |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------------------------------------|--|--|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input checked="" type="checkbox"/> 担・ <input checked="" type="checkbox"/> 副 | 生・食・ <input checked="" type="checkbox"/> 保 | 1・ <input checked="" type="checkbox"/> 2 | <input checked="" type="checkbox"/> A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|------------------|---|
| こころとからだのサポートセンター | <input checked="" type="checkbox"/> 委員長・ <input checked="" type="checkbox"/> 委員 |
| 入試部 | 委員長・ <input checked="" type="checkbox"/> 委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------------|---|
| 和歌山市社会福祉審議会 | 児童福祉部門副部長 |
| 和歌山県福祉事業団 | 福祉サービス苦情解決第三者委員 |
| 和歌山県社会福祉協議会 | 施設サービス第三者評価事業評価調査者 |
| 和歌山子どもの虐待防止協会 | 運営委員 |
| 和歌山県子ども未来課 | プロポーザル選定委員(社会的養護経験者支援(アフターケア)関係) |
| きょうだい家族学習会 | 和歌山県内の障害児の保護者や、きょうだいの支援を目的とし、令和5年度に設立。 |
| わかやま子ども学総合研究センター | 公開研究集会分科会にて「子育て支援」をテーマに座長を務めた。 |
| 和歌山県子ども未来課 | 和歌山県子育て支援員研修の講師として「子ども家庭福祉」「対人援助の価値と援助」「児童虐待と社会的養護」「総合演習」を担当。 |
| 和歌山県子ども未来課 | 令和5年度 要保護児童対策調整機関の調整担当者研修講師として「社会的養護と市町村の役割」をテーマに講演。 |
| 旭学園 | 施設内研修において「被措置児童等虐待防止について」をテーマに講師を務めた。 |
| 和歌山県家庭相談員連絡協議会 | 令和5年度研修会で講師として「児童虐待とは～家庭相談員に向けて～」をテーマに講演。 |

Ⅱ. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子とられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | 1. キリストの教えに根ざした教育 |

| | |
|-------|--|
| | <p>2. 一人ひとりを大切にする教育</p> <p>3. 能力の開発を目指す教育</p> <p>4. 自己形成を促す教育</p> <p>5. 社会貢献への態度を形成する教育</p> |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>学生が能力を最大限に発揮し、より多くの選択肢を獲得できるよう、一人ひとりに寄り添った教育を行うとともに、学外活動を通し社会資源としての短期大学の役割を果たす。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|-------------|--|---|
| 地域子育て子育て支援論 | <p>受講人数が少人数であったため、各回、グループワークをメインに授業を行った。</p> | <p>グループワークでの話題が広がり過ぎ、論点の整理が不十分であった。明確なテーマの提示と教員によるフィードバックを強化していく。</p> |
| 子ども家庭支援論 | <p>事例を用いた事例検討をグループワーク形式で実施した。</p> | <p>アンケートから現場の事例に対する評価の高さが見られた。実際現場で起こる事例やそれに対応するツールなど実践的な内容の強化を図っていく。</p> |

| | | |
|---------------|---|---|
| 保育実習指導 Ⅲ | 受講生が実習を通して学んだ内容からテーマを絞り、パワーポイント等のツールを使用した発表を行った。また、学生間で発表に対する質疑応答の時間を設けた。 | 少人数であったため、すべての学生が毎回必ず発言する機会を確保できた。プレゼンする側も質問する側も参加型の授業であったため、アンケートからは「楽しかった」という意見が多く見られた。 |
| 社会的養護 I | 実際の現場体験談や施設の写真を適宜取り入れることで、制度や法律の理解を深められるよう努めた。 | アンケートから「事例によりイメージしやすかった」という意見が多く見られ一定の評価を得ることができた。 |
| 子ども家庭福祉 | 穴埋め式のワークシートを配布し、それに対応したスライドを投影しながら授業を進めることにより、作業時間を確保した。 | 1年前期の授業であるため、作業方法が明確であることへの一定の評価を得ることができた反面、書字速度の個人差により、進行スピードへの意見も見られた。 |
| 社会福祉 | 実際の現場体験談や施設の写真を適宜取り入れることで、制度や法律の理解を深められるよう努めた。 | アンケートから「体験談が面白かった」という意見が多く見られることから、体験談が授業内容に沿えるよう調整していきたい。 |
| 保育実習指導 I A | 実習への備えとして基礎的な知識を提供した。 | アンケートから「実習に対する不安が和らいだ」「実習で必要なことが理解できた」といった実習に直結する内容への評価が高かった。今後、実習生としての振る舞いや実習の取り組み方など、具体的内容を充実させていく。 |
| 子育て・子育て支援論 | 受講生が生活文化・食物栄養専攻生であるため、専門的な授業ではなく、身近な話題やニュースを用いて行った。また、地域の活動を現場で活躍するゲストスピーカーを招き紹介した。 | アンケートから「将来役に立つ内容であった」という意見が多くみられ、専門職としての関心だけではなく、今後の自分自身のテーマとして理解を深めることができたことが評価できる。 |
| 保育実習指導 I B | 学生自身の実習で得た学びについて5分間のスピーチを行った。まとめる力、伝える力、自身の振り返りを狙った。 | アンケートから、実習での学びの共有やクラスメイトへの発表体験に対する評価が高かった。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

主に行政機関が実施する研修等において、講義を行っており、講義依頼の件数は増加傾向にある。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

授業の理解度や満足度に差がみられるため Google クラウドルームを活用し、授業時間外の補足的な取り組みを展開していく。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

活動の対象を民間や地域へも広げていけるよう、努める。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

渡辺 直人

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 17 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 渡辺 直人 |
| 役職 | 講師 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|----------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 保育者論 | 保育 | 1 | 前 | 必 | 2 | 2 | 2 |
| 保育内容総論 | 保育 | 1 | 後 | 選 | 1 | 2 | 2 |
| 教育課程論 | 保育 | 2 | 前 | 選 | 2 | 2 | 2 |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | 保育 | 2 | 後 | 選 | 2 | 1 | 2 |
| 基礎演習 | 保育 | 1 | 前 | 選 | 2 | 1 | 2 |
| 卒業研究 | 保育 | 2 | 通 | 必 | 2 | 1 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|--------------------|--------|
| 入試部 | 委員長・委員 |
| きょう育の和センター | 委員長・委員 |
| 研究倫理・コンプライアンス推進委員会 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|----------------------|------------|
| 幼稚園の開祖「F.フレーベル」探究—生涯 | 2023 年 8 月 |

| | |
|--------------------|-------------|
| と、その教え一 | |
| 保育士キャリアアップ支援 乳児保育③ | 2023 年 12 月 |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------------------|
| 八洲学園大学 | 公開講座の開講 |
| 和歌山県 | 和歌山県保育士キャリアアップ研修 |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |

| | |
|----|--|
| 個人 | 研究者として、日々研鑽と修練を積み、社会的使命を果たすことを目的とする。得られた知見を学生・地域に還元し、地元社会・和歌山をよりよくしていくことが、本学職員としての職責であると考えている。 |
|----|--|

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 保育者論 | グループワーク | 一方的な講義に比べ、知識の定着が促進された。 |
| 保育内容総論 | 模擬保育 | 聴講のみでは得られない実践的な知識が身についた。 |
| 保育・教職実践 演習(幼稚園) | 模擬保育 | 聴講のみでは得られない実践的な知識が身についた。 |
| 基礎演習 | PC 基本操作の指導 | 社会に必要な PC スキルの基本を身につけることができた。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

担任業務として、学級経営や、就職指導等、多岐に渡るサポートを行った。

Ⅳ. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

一方的な講義ではなく、対話やグループワークや演習を取り入れ、アクティブラーニングを行っていきたい。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

社会で活躍できる学生の育成をモットーに、適宜サポートをしていきたい。

Ⅴ. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書

金谷 有希子

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 29 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 金谷 有希子 |
| 役職 | 助教 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|----------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 保育実習指導Ⅱ | 保育 | 2 年 | 通年 | 選択 | 1 | 2 | 2 |
| 保育実習指導ⅠA | 保育 | 1 年 | 後期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 保育実習指導ⅠB | 保育 | 2 年 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 4 |
| 保育のこころ | 保育 | 1 年 | 前期 | 必修 | 1 | 1 | 2 |
| 基礎ゼミ | 保育 | 1 年 | 前期 | 必修 | 1 | 1 | 2 |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | 保育 | 2 年 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 保育実習Ⅰ | 保育 | 1 年 | 集中 | 選択 | 4 | | |
| 保育実習Ⅱ | 保育 | 2 年 | 集中 | 選択 | 2 | | |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 教務部 | 委員長・委員 |
| 教職課程委員会 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>本学の教育理念である「一人ひとりを大切にする教育」を念頭に、学生と丁寧に対話しコミュニケーションを図ることを常に意識している。また、社会で活躍でき</p> |

| | |
|--|---|
| | る保育者を養成できるよう、専門的知識や技術の向上だけでなく、社会性や主体性を育成することを目標としている。授業内だけでなく、授業外での個別指導の時間を多く持ち、学生それぞれが持っている能力を2年間で最大限引き出せるよう努めている。 |
|--|---|

Ⅲ.【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------------|--|---|
| 保育実習指導 Ⅱ | 実習事前指導として、学生が立案した指導計画案には、添削したりコメントをいれたりしてフィードバックしている。また、個別指導が必要な学生には、授業外で時間をとって助言した。実習終了後は、これまでの学外実習評価をもとに、一人一人に対して面談を行い、2年間で伸ばした点、今後の課題を学生と共に確認した。 | 授業評価アンケートは、全体平均より高い評価を得ることができた。特に、個々に対応した効果が有効であったことが記述内容から窺えたので、今後も継続していきたいと考える。 |
| 保育実習指導 ⅠA | パワーポイントを用いてスライドを提示し、授業を進めている。ただ、スライドとまったく同様の資料は配らず、スライドを一部抜きとった配付プリントや学生個人のノートへ書き込みするよう促している。また、データやグラフを効果的に活用したり、映像を用いたりしながらより理解を深められるよう工夫した。養護技術習得に向けた授業回では、スマートフォンカメラを使用し、デモンストレーションしている場面をプロジェクターに映して手順を分かりやすく示し、その後学生が実践する時間をとった。 | 授業評価の自由記述より、「説明や配付プリントが分かりやすかった」と複数名から回答を得ることができた。(ただし、2名で担当している授業の為、どちらの担当回を述べているかは不明である)また、授業評価は全体平均より高いポイントを得ることができた。実習を円滑に進めていくため、実習前に最低限理解しておいて欲しい知識や心構えを受講学生全員が修得できるよう、次年度もさらに工夫を凝らしたい。 |
| 保育実習指導 ⅠB | 保育実習Ⅰ終了後の授業として、学生一人一人が実習体験を発表する | 授業評価アンケートより、授業目標は概ね達成できたとみられる記述が多く |

| | | |
|----------------|--|---|
| | <p>機会を設けている。1年次の実習内容を具体的に振り返り自らの学びを整理し、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて新たな学習課題を明確にすることを目的としている。体得したことを自身の言葉で表現したり、他者の前で発表したりする経験から、人前で話すスキルが向上されることも目指している。今年度は、発表者に質問したり学生同士が意見を交わしたりできるような雰囲気作りを心掛けた。</p> | <p>見られ、一定の成果はあったものと思われる。来年度は、学生が与えられたスピーチ時間を意識できるようタイマー導入を検討している。</p> |
| 保育のこころ | <p>授業内容に応じて、配布プリント、パワーポイントを用いたスライド、動画等を併用しながら授業を展開した。複数教員で担当している授業の為、他教員が進めている授業回では、机間巡視しながら学生の理解促進のためのサポートや助言を適宜行った。</p> | <p>「授業を通して、現場体験参加への準備や心構えができた」と肯定的な意見が多く見られた。一方、「授業の開始時間や終了時間は守られていた」の項目が平均を下回っていた。学生のコメントにも「時間が足りなかった」と時間配分について指摘があったため、次年度はもう少しゆとりのある授業構成を考えたい。</p> |
| 基礎ゼミ | <p>授業科目「保育のこころ」と連動しながら、現場体験参加に向け、学生が子どもや保育に対して理解を深められるような授業内容としている。今年度は外部講師を招き、児童文化財を活用し、実践力を身につけられる機会を設定した。</p> | <p>体験型学習やグループワークの機会を設けることで意欲的に学べたとの意見が多く見られた。今後も継続しながら学生が更に能動的に取り組み、実践へと結びつくような内容を考えていきたい。</p> |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | <p>小グループの模擬保育を主に担当した。学生がこれまでの実習経験を基に、主体的に教材研究し、グループ内で話し合い、指導計画を立案・実践できるよう事前指導では助言しすぎないことを心掛けた。模擬保育実践後は、保育者役・子ども役・観察者</p> | <p>授業評価は平均を上回る評価で、特に「この授業は自分のためになる内容だった」の項目が高評価だった。次年度も、卒業前の学生たちが保育者となる自覚と責任を再確認できるよう授業を展開していきたい。</p> |

| | | |
|--|---------------------------------------|--|
| | それぞれの立場から意見を発表し、どの学生も多角的な視野を持てるようにした。 | |
|--|---------------------------------------|--|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

教務部に属しているため、学生への履修指導や履修相談には常時対応している。必要単位を取りこぼすことなく、それぞれが目指す目標に向かい、意欲的に授業へ取り組めるようサポートしている。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

授業評価アンケートより、どの科目も「授業の目標が分かりやすく示されていた」の項目が他項目に比べやや低かった。授業全体を通した目標や各回の目標をさらに明確に提示していきたい。また、保育所実習を担当しているため、現在実施中の保育実習 I の評価表が全施設から返却されれば、一人ひとりの評価や所見を確認し、学生全体へ伝えるべき内容が見出された場合は、授業内容へ反映し全員へ共有していく。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

次年度は、学生の就職活動の支援をきめ細やかに行っていきたい。学生一人ひとりの意思を尊重しながら、面談を重ねてサポートしていくことを目標とする。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

桜井 裕子

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 21 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 桜井 裕子 |
| 役職 | 助教 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|--------|--------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| 保健体育実技 | 保育科 | 1 | 通年 | 必修 | | 1 | 100 |
| 保健体育講義 | 保育科 | 1 | 前期 | 必修 | | 1 | 100 |
| 保健体育実技 | 生活文化学科 | 1 | 通年 | 選択 | | 1 | 100 |
| 保健体育講義 | 生活文化学科 | 1 | 前期 | 選択 | | 1 | 100 |
| 保育のこころ | 保育科 | 1 | 前期 | 必修 | | 1 | 100 |
| 基礎ゼミ | 保育科 | 1 | 前期 | 必修 | | 1 | 100 |
| 卒業研究 | 保育科 | 2 | 通年 | 必修 | | 1 | 100 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・② | ㊸・㊹ |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 学務委員会 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| | |
|------------|---------------------|
| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
| 和歌山信愛幼稚園 | 年中児・年長児対象のリズムジャンプ指導 |

Ⅱ.【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | <p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p> |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | <p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p> |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | <p>保育現場において、チームワークが求められる。場面に応じた自身の立場、役割に気づき、行動できるよう、仕事内容への理解がチーム内での自身の役割をより明瞭にする。専門的な知識・技術力の習得だけでなく、他者と協調しながら、主体的に行動できる人材を養成することを目的とする。</p> |

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------|--|--|
| 保健体育実技 | 生涯生きていくうえで必要な体力の習得を目的とする科目であり、1年間で積み重ねた基礎的な知識がどのようにして生涯スポーツに生かすことができるのかを実体験の中で学ぶ機会となる。 | 実技を行う中で、他学生との交流を深めることもできたと肯定的な意見が多かった。 |
| 保健体育講義 | 事前に資料を紙媒体で配布し、実技で行った内容と照らし合わせることで、学びを深められるように工夫をした。 | 実生活で活用できる内容が多かったと肯定的な意見が多かった。 |

② 授業以外の教育活動における方法と成果

| |
|--|
| |
|--|

Ⅳ. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

実技科目を担当している立場において、外部での講習会で得た最新の知識、技術を講義に反映させていく。また、変化する時代において保育現場以外の分野にも参入できる社会性、人間性、問題解決力を兼ね備えた人材の育成に努める。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

講義内だけでなく、日々の大学生活の様々な場面において教員側から早い段階で積極的な介入、関わりを持つことがより重要であると考え、自身も日頃から関わりを多く持つように心がける。

Ⅴ. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

仲谷 徹子

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

| | |
|-----|-----------------|
| 提出日 | 2024 年 2 月 28 日 |
| 所属 | 保育科 |
| 氏名 | 仲谷 徹子 |
| 役職 | 助教 |

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

| 科目名称 | 学科・ 専攻 | 配当 年次 | 開講 期 | 必修・ 選択 | 単位 数 | 週担当 コマ数 | 週担当 時間数 |
|------------|-----------|----------|---------|-----------|---------|------------|------------|
| ピアノ I | 保育 | 1 | 通年 | 必修 | 2 | 2 | 4 |
| ピアノ II | 保育 | 2 | 通年 | 選択 | 2 | 2 | 4 |
| 基礎演習 | 保育 | 1 | 前期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 音楽 | 保育・ 生文 | 1 | 後期 | 選択 | 2 | 1 | 2 |
| 子どもと音楽 I | 保育 | 1 | 前期 | 選択 | 1 | 1 | 1 |
| 子どもと音楽 II | 保育 | 1 | 後期 | 選択 | 1 | 1 | 1 |
| パーカッション I | 保育 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 2 |
| パーカッション II | 保育 | 2 | 後期 | 選択 | 1 | 2 | 2 |
| 子どもの表現遊び | 保育 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 2 | 2 |

② 担任業務

| 担任業務の有無 | 担人・副担 | 担当学科・専攻 | 学年 | クラス |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| 有・無 | 担・副 | 生・食・保 | 1・2 | A・B |

③ 委員会等の活動

| 委員会等の名称 | 役職 |
|---------|--------|
| 宗教部 | 委員長・委員 |
| 図書委員 | 委員長・委員 |

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

| 教育活動の名称 | 実施日(期間) |
|---------|---------|
| | |

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

| 勤務先(又は委嘱先) | 教育内容 |
|------------|------|
| | |

Ⅱ. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

| | |
|--------|--|
| 建学の精神 | 本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。 |
| 信愛教育理念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育 |
| 全学 | 本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。 |
| 学科・専攻 | <p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに貢献できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p> |
| 個人 | 保育士としての基礎知識と実践に対応できる力の育成を心がける。 |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

Ⅲ. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

| 担当科目名 | 教育の方法 (授業改善の取り組みを含む) | 成果 (授業評価の結果とその評価) |
|--------------|---|---|
| ピアノ I | 入学前レッスン(3回)を引き継ぎ、個人のレベルに合わせた楽譜や指導を心掛け、学期末には授業計画通りのレベルに到達できるように取り組んだ。 | ピアノ小品と子どもの歌20曲を合格するという目標を掲げ、毎週のレッスンに臨ませたがほぼ一部の学生を除いて弾き切ることが出来ている。 |
| ピアノ II | 春休みの課題を前期の試験に充て、1年間で弾く課題を早い目に周知することで出来るだけ実習などに影響が出ないように発表会や試験を行った。 | ピアノ経験が少ない学生も、学習発表会に積極的に取り組むことが出来ていた。幼児のうたの課題曲も、15曲の合格を目指して練習していくことが出来ていた。 |
| 基礎演習 | ピアノ初心者向けに、指の技術力の高め方、譜読法、練習法など詳細に説明を行った。個人的に苦手意識の高い学生のためにヘッドホンを使って丁寧に指導を行った。 | 指の使い方の意識や読譜法、リズムの理解が良くなり、スムーズにピアノ I のレッスンにも移行していた。 |
| 子どもと音楽 I・II | 音楽を学ぶ上での基礎的な知識と経験を育むために、楽典の知識、楽曲への理解度を深める授業を目指した。 | 専門的な知識を苦手とする学生のために小テストを小分けに行ったので、学生の負担は少なくなったと感じた。それにより、子どもの手遊び曲などもグループで気軽に実践出来ていた。 |
| パーカッション I・II | 打楽器・ハンドベルを練習し、学習発表会や学外での演奏活動を行った。 | 人前での演奏経験を積むことにより、より深く楽器の特性や演奏法を学ぶことが出来た。グループ活動においてもチームワークを養う機会になった。 |
| 音楽 | ヨーロッパ・日本における音楽史を、その時代特有の歴史・絵画などと照らし合わせて講義をした。 | 講義だけではなく、和歌山県立図書館・南葵文庫へ赴き学芸員の方にも説明をして頂き、見分を深められた。 |
| 子どもの表現遊 | 劇に合わせた効果音をどのように考 | 劇の場面の中に、効果的に楽器や音 |

| | | |
|---|------------------------|----------------------------|
| び | えたら良いのか楽器を使いながら説明を行った。 | を効果的に入れ、積極的に創作をすることが出来ていた。 |
|---|------------------------|----------------------------|

② 授業以外の教育活動における方法と成果

パーカッションⅡ・・・近鉄百貨店の要望で演奏を行った。大勢の人前で演奏をすることで、実践に役立つ力が身についた。

音楽・・・和歌山県立図書館・南葵文庫に寄贈されている多くの楽譜・文献を目にすることが出来た。ヨーロッパ音楽の流れを講義で行っていたので、実際に触れることが出来たので知識が深まった。

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

昨年度の授業案を見直し、更に工夫を重ねた講義を行う。

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

演奏活動などさらに機会を増やしたい。

V. 【根拠資料】

- ・ 2023 年度 シラバス
- ・ 2023 年度 授業評価アンケート結果
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ 2023 年度 和歌山信愛女子短期大学組織図